【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・本館、平成館、法隆寺宝物館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。<br>・平成 23 年 1 月から、「平常展」を「総合文化展」に改称し、「平常展はいつも同じ」というイメージの払拭を図った。<br>・改修後の東洋館の展示案について、展示室・展示ケースの内装、展示手法、展示台・演示具等について具体的に検討した。<br>・11 月から 12 月にかけて本館 1 階の 12～15 室を改装した。<br>・合わせて、本館 1・2 階の展示室のコーナー解説パネルを、すべて日・英・中・韓の 4 言語表記とした。また題箋のデザインを改訂した。<br>・平成館考古展示室において，埴輪コーナーの解説をデジタルサイネージによる 4 言語表記とした。<br>・震災の影響については、観覧者・展示品・設備等への直接の被害は無かったが、安全確認と社会的諸事情により 23 年 3 月 12 日～28 日まで臨時休館した。また、23 年 3 月 29 日から当分の間（23 年 4 月末までの予定）開館時間を 10 時～16 時とし、表慶館・法隆寺宝物館を休館して本館・平成館のみ開館した。 | | | |
| 補足事項 | ・東洋館は、耐震補強工事を実施するため休館中である（平成 24 年度中に開館の予定）。<br>・本館 12 室に新型の展示ケースを導入し、照明も工夫して、一般の観覧者にも日本の漆工作品の美しさを示すことができる展示とすることができた。<br>・本館 13～15 室は、引き続き既存のケースを使用しているが、13 室はケース配置を、15 室は展示台の色を改め、観覧者が落ち着いて鑑賞いただけるようにした。<br>・従来の題箋では、「国宝」「重要文化財」「重要美術品」の表示が小さく、また「撮影禁止」の表示も別になっており、わかりにくいとの指摘があった。このため、「国宝」などの表示を改め、さらに撮影禁止品である旨の表示も一体化し、一般の観覧者にも分かりやすい題箋とした。 | | | |

本館 12 室の日本漆工展示

新しいデザインの題箋

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展入場者数 | 373,068 | － | － | 経年変化 | 334,297 | 412,675 | 330,536 | 373,068 |
| | 陳列替回数 | 290 回 | 200 回 | A | | 319 | 319 | 316 | 290 |
| | 陳列総件数 | 5,610 件 | 5,500 件 | A | | 10,223 | 7,172 | 6,601 | 5,610 |
| | 特集陳列実施回数 | 53 回 | － | － | | 84 | 79 | 66 | 53 |
| | 外国語パネルの設置 | 96% | 80% | A | | 95% | 97% | 97% | 96% |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を充分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、作品キャプションについてはすべてに外国語を付すとともに、展示テーマごとにその時代背景などを説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | 平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止せざるをえない。<br><br>そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。<br>・「京都国立博物館所蔵能装束展」（金沢能楽美術館）会期：４月１７日～５月３０日<br>・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。<br>・上記の貸出作品の情報をウェブサイトで公開している。 | | | |
| 補足事項 | ・全国的には展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館ではむしろ積極的に貸出を行い、収蔵品公開に努めている。<br>・ウェブサイトにおける貸出作品の情報公開（トップページ「館外での作品公開」）は、寄託作品も個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。 | | | |

ウェブページ「館外での作品公開」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展入場者数 | － | － | － | 経年変化 | 165,080 | 141,965 | － | － |
| | 陳列総件数 | － | － | － | | 1,611 | 1,081 | － | － |
| | 陳列替回数 | － | － | － | | 53 | 39 | － | － |
| | 特集陳列実施回数 | － | － | － | | 7 | 4 | － | － |
| | 外国語パネル設置 | － | － | － | | 100% | 100% | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | ほぼ順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 学芸部長補佐　岩田茂樹 |

**実績・成果**

平成 22 年 7 月 21 日、本館の展示室内の照明設備を一新するとともに、「なら仏像館」と新たに命名し、リニューアルを行った。また、併せて平常展の名称を「名品展」とし、年度を通して、なら仏像館における「珠玉の仏像」（彫刻部門）、青銅器館における「中国古代青銅器」（考古部門）を開催し、西新館では「珠玉の仏教美術」（絵画・書跡・工芸・考古部門）を開催した。そのなかには、「国宝を味わう」（12 月 7 日～1 月 10 日、西新館）、「縄文のムラ」（1 月 18 日～2 月 16 日、西新館）、「シルクロードを旅した漢代漆器」（1 月 18 日～2 月 16 日、西新館）の３回の特集展示が含まれている。

企画展示としては、恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（12 月 7 日～1 月 16 日、東新館）、「お水取り」（2 月 5 日～3 月 14 日、東新館）を実施した。

**補足事項**

年度を通して、なら仏像館・青銅器館および西新館において、仏教美術に関する、国宝・重要文化財を多数含む高水準の展示を行うことができた。

特集展示も３回に及んだ。とりわけ「シルクロードを旅した漢代漆器」は、当館文化財修理所で修理を完了した漢代漆器の展示であったが、当該作品はウクライナ国立アカデミー附属考古学研究所クリミア支部の所蔵であり、同国内のクリミア半島のスキタイ貴族墓から出土したもので、シルクロードを経て遠く西方へもたらされた文化交流の軌跡を紹介すると同時に、きわめて高度な技術を要したその修復過程を報告することにより、文化財修理への一般の理解を得るために寄与するところの大きいものであったと考える。

また「縄文のムラ」は、考古資料相互活用促進事業としてとりおこなったもので、関西ではふだん公開されることの少ない山形県の遺跡から出土した彩漆土器等を公開する意義深い企画となったと思われる。

「国宝を味わう」は、当館において所蔵ないし寄託を受けている作品の中から、国宝に指定されている名品中の名品を一堂に会した企画であり、観覧者の好評を得ることができた。

正倉院展（10/23～11/11）開始以前は、西新館が耐震工事のため閉館であり、また「なら仏像館」が特別展「大遣唐使展」の会場となるなど、本年度は名品展（平常展）の開催がなかなか困難であったため、陳列総件数は例年より減少した。また、陳列替回数においても、上記理由に加え、他館との統一を図るため、２２年度よりカウント方法の変更を行った事により、目標値の数字を実質以上に大きく下回る実績値となった。なお、特集展示や特別陳列は日程を調整して昨年並みの回数を維持することができた。

陳列替内訳
- 珠玉の仏像（なら仏像館）19 回
- 珠玉の仏教美術（西新館）80 回
- 国宝を味わう（西新館）２回：　計 101 回

陳列件数
- 絵画　47 件、彫刻　111 件、書跡　36 件、工芸　78 件
- 考古　28 件
- 国宝を味わう　14 件
- シルクロードを旅した漢代漆器　６件
- 縄文のムラ　20 件　：　計 340 件

特集展示「シルクロードを旅した漢代漆器」会場風景

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平常展（名品展）入場者数 | 71,566 人 | － | － | | 131,336 | 112,849 | 136,672 | 71,566 |
| 陳列替回数 | 101 回 | 850 | C | | 21 | 12 | 8 | 101 |
| 陳列総件数 | 340 件 | 850 | C | | 928 | 605 | 717 | 340 |
| 特集陳列等実施件数 | 5 件 | － | － | | 10 | 6 | 8 | 5 |
| 外国語パネル等の設置 | 84%（特集展示除く） | 80% | A | | 56% | 77% | 91% | 84% |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F

（S、F の理由）

**中期計画記載事項**

平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化交流展室長　河野一隆 |
| 実績・成果 | ○トピック展示のみならず、分り易い文化交流展示室のサインを開発し、快適な観覧環境を提供した。<br>○トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。<br>○特定テーマを掘り下げたトピック展示を 12 回実施し、「湖の国の名宝−最澄がつないだ近江と太宰府−」(6 月 11 日～9 月 5 日)など当館外部の機関と共同で主催したトピック展示も３回実施した。<br>○中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 | | | |
| 補足事項 | ○国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展示の特徴が理解、定着されつつある。<br>○海外からの団体ツアーや個人客に向けたマップを作成し、好評を博している。<br>○トピック展示を開催し、平常展の活性化を図るためのさまざまな企画を開催した。<br>○滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県と共同主催によって「湖の国の名宝−最澄がつないだ近江と太宰府−」(6 月 11 日～9 月 5 日)を開催し、関連するイベント・シンポジウムを開催した。<br>○徳川美術館の協力を経て、新春特別公開「姫君の金銀香道具」を開催した。<br>○日本の建築史をテーマとしたトピック展示「日本の建築をめぐって」を開催した。 | | | |

トピック展示「湖の国の名宝」風景

トピック展示「日本の建築をめぐって」風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展入場者数 | 274,545 人 | — | — | 経年変化 | 341,282 | 241,423 | 544,661 | 274,545 |
| | 特集陳列 | 12 回 | — | — | | 5 | 17 | 22 | 12 |
| | 作品への外国語キャプション | 100% | — | — | | 100% | 100% | 100% | 100% |
| | 時代背景の外国語パネル（音声ガイドで対応を含む） | 83% | 80% | A | | 63% | 82% | 82% | 83% |
| | 陳列替回数 | 334 回 | 300 回 | A | | 375 | 386 | 431 | 334 |
| | 陳列総件数 | 1,668 件 | 800 件 | S | | 2,012 | 3,146 | 2,106 | 1,668 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネルを８０%以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等　(1/11)<br>特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部博物館教育課長<br>今井 敦 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 4 月 20 日(火)～6 月 6 日(日) (43 日間)<br>・会場　平成館特別展示室第 1～4 室<br>・主催　東京国立博物館、永青文庫、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社<br>・後援　文化庁<br>・協賛　トヨタ自動車、日本写真印刷<br>・作品件数　284 件（うち国宝：8 件　重要文化財：27 件　重要美術品：18 件）<br>・入館者数　182,470 人<br>・入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円) 中学生以下無料　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・アンケート結果　満足度　82.8%<br><br>永青文庫の収蔵品、細川家に伝来する美術品や歴史資料を展示し、細川家の歴史と日本の伝統文化を紹介し、美の歴史を体系的に示すことができた。あわせて美術コレクターである細川護立の審美眼の独自性を示すことができた。 | | | |
| 補足事項 | ・巡回各館との業務連絡について、若干の不備がみられたので、展覧会内容について、各館との意志疎通、情報共有をさらに強力に推し進める必要がある。 | | | |

チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 182,470 人 | 160,000 人 | A | 経年変化 | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等 (2/11)<br>特別展「誕生！中国文明」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部列品管理課長<br>谷　豊信 |

**実績・成果**

・開会期間　平成 22 年 7 月 6 日(火)～9 月 5 日(日)　(55 日間)
・会場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主催　東京国立博物館、読売新聞社、大広、中国河南省文物局
・後援　中国大使館
・協賛　清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、三城ホールディングス
・協力　日本航空、日本貨物航空、TBS ラジオ
・作品件数　147 件
・入館者数　105,538 人
・入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 75.5%

中国歴代に渡って数多くの都が置かれ、常に中原の中心地として中国文化の中で重要な位置を占める河南省の全土から、最近の発掘品を含め、各時代の代表的な名品を選定し展示することで、中国芸術の伝統とそれが発展してきた様相を効果的に示すことができた。

**補足事項**

・展覧会開催に向けて、諸般の事情により準備作業が遅滞する結果となり、各作業工程において不都合が出た。作品の保存的観点を最優先に置きつつ、さらに関係各機関においての調整を十全に行う必要がある。
・展覧会内容、規模に関わらず、入場者数の伸展がなかった。展覧会周知（広報等）のより効果的な手段、方法を検討する必要がある。

動物紋飾板
夏・紀元前 17 世紀～前 16 世紀
偃師市二里頭VI区 11 号墓出土
中国・洛陽博物館

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | 105,538 人 | 220,000 人 | C | 経年変化 | － | － | － | － |

**年度実績評価総括**

S　A　B　Ⓒ　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年３～４回程度

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 一部要注意 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (3/11)<br>光明皇后1250年御遠忌記念　特別展「東大寺大仏―天平の至宝―」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部調査研究課東洋室長<br>浅見　龍介 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 10 月 8 日(金)～12 月 12 日(日)　(59 日間)<br>・会場　平成館特別展示室第 1～4 室<br>・主催　東京国立博物館、華厳宗大本山東大寺、読売新聞社<br>・後援　文化庁、平城遷都 1300 年記念事業協会<br>・協賛　しみず建設、大和証券、トヨタ自動車、ニッセイ同和損害保険、藤田観光、文化服装学院、みずほ銀行、光村印刷<br>・特別協力　ソニー、ソニービジネスソリューション<br>・協力　日本ヒューレット・パッカード、エヌビディア、エルザジャパン<br>・映像協力　凸版印刷<br>・作品件数　67 件（うち国宝 11 件、重文 18 件、正倉院宝物 12 件）<br>・入館者数　232,791 人<br>・入場料金　一般 1500 円（1300 円/1200 円)、大学生 1200 円（1000 円/900 円)、高校生 900 円（700 円/600 円）中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・アンケート結果　満足度　74.4%<br><br>東大寺の大仏建立をめぐる作品を通してその精神世界に迫るとともに、天平文化の精華を展観し、肖像彫刻の傑作などを通じて、脈々として続く仏教文化の重要性や意義を効果的に紹介することができた。 | | | |
| 補足事項 | ・　展覧会内容、規模に関わらず、入場者数の伸展がなかった。展覧会周知（広報等）のより効果的な手段、方法を検討する必要がある。<br> <br>会場風景 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 232,791 人 | 420,000 人 | C | 経年変化 | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　A　B　Ⓒ　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 一部要注意 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (4/11)<br>文化財保護法制定 60 周年記念　特別展「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部長<br>松本　伸之 |

**実績・成果**

・開会期間　平成 23 年 1 月 18 日（火）～3 月 6 日（日）(42 日間)
・会場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主催　東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社
・特別協力　平山郁夫シルクロード美術館、法相宗大本山薬師寺
・協賛　大日本印刷
・協力　文化遺産国際協力コンソーシアム、東京美術倶楽部、朝日生命保険、あいおいニッセイ同和損害保険
・後援　外務省、文化庁
・作品件数 101 件(うち重要文化財 5 件)
・入館者数　188,402 人
・入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 80.2%

平山郁夫氏の文化財保護活動に関わる偉大な活動を顕彰し、各地から集めた遺物や、平山氏ゆかりの美術工芸品を展観することで、平山氏の業績を通して文化財保護の重要性や意義をわかりやすく示すことができた。

**補足事項**

ナーガ上の仏陀坐像
アンコール期・12 世紀
アンコール・トム出土
東京国立博物館蔵

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | 188,402 人 | 180,000 人 | A | 経年変化 | － | － | － | － |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

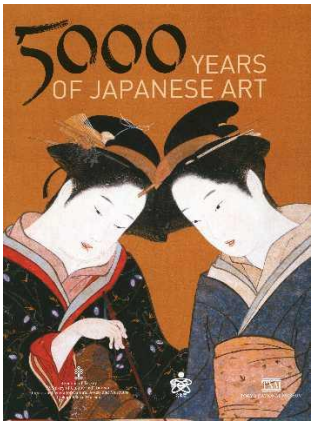
**中期計画記載事項**

特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年３～４回程度

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　(5/11)<br>文化庁海外日本古美術展「日本の美　5000 年(5000 Years of Japanese Art)」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部上席研究員<br>池田　宏 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 5 月 5 日(水)～ 6 月 28 日(月)（49 日間）<br>・会場　トプカプ宮殿博物館（トルコ共和国・イスタンブール）<br>・主催　東京国立博物館、文化庁、トルコ共和国文化観光省<br>・作品件数　47 件（うち国宝：2 件　重要文化財：3 件）<br>・入場者数　607,734 人（但し、当該期間の総入館者数）<br>・入場料金　無料<br><br>「トルコにおける日本年」の記念事業の一環としてトプカプ宮殿博物館において、縄文時代から江戸時代までの 5000 年にわたる日本美術の精華を、当館の収蔵品を中心に紹介することで多くの鑑賞者を集めることができ、両国の文化交流に大きな実績を残せた。 | | | |
| 補足事項 | ・<br>  <br><br>展覧会カタログ表紙 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 607,734 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 2121-6

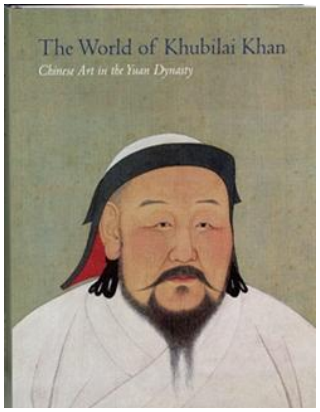
| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　(6/11)<br>海外展「仏教美術と宮廷の美」（仮称） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部長<br>島谷　弘幸 |
| 実績・成果 | ・22 年度開催予定であったヒューストン美術館（アメリカ合衆国）における本展は、諸般の事情により、平成 23 年度に実施予定となった。 | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |
| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ⓕ<br>（Ｓ、Ｆの理由）先方の都合により開催日程に変更があったため。 | | | | | | | | |
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 | | | | | | | | |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | | | | | | | | | |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等　(7/11)<br>The World of Khubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty<br>（クビライ･カーンの世界：元王朝の中国美術） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部列品管理課登録室長<br>救仁郷　秀明 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 9 月 20 日（月）～平成 23 年 1 月 2 日（日）(105 日間)<br>・会場　メトロポリタン美術館（アメリカ合衆国・ニューヨーク）<br>・主催　メトロポリタン美術館<br>・特別協力　東京国立博物館、奈良国立博物館、中華文物交流協会<br>・作品件数　220 件（うち重要文化財：3 件）<br>・入場者数 166,476 人<br><br>中国元時代において制作された絵画、工芸品の優品の数々を展示することによって、同時代の美術の重要性を明らかにすることができた。また、多くの入場者を集め大好評を得た。 | | | |
| 補足事項 |  <br><br>展覧会カタログ表紙 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 166,476 人 | — | — | 経年変化 | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-8

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　(8/11)<br>創立 80 周年記念特別展「よみがえるヤマトの王墓－東大寺山古墳と謎の鉄刀－」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部列品管理課長<br>谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・開会期間 平成 22 年 9 月 22 日(水)～11 月 23 日(火・祝) (56 日間)<br>・会場　天理大学附属天理参考館（奈良県天理市）<br>・主催　天理大学附属天理参考館、東京国立博物館<br>・後援　天理市、奈良県教育委員会、天理市教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ放送、奈良テレビ放送<br>・作品件数52件（うち重要文化財：20件）<br>・入場者数 11,139人<br>・入場料金　一般400円・小中学生200円・20名以上の団体300円<br><br>東京国立博物館と天理参考館が共同で東大寺山古墳出土遺物全点を調査した研究成果を一般に公開するため、出土品のうち、展示可能なものすべてと関連遺物を展示し、東大寺山古墳出土遺物の全貌を余すところなく示すことができた。 | | | |
| 補足事項 | <br>チラシ | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 11,139 人 | ― | ― | 経年変化 | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-9

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等　(9/11)<br>海外展　万国博覧会開催記念「千年丹青―日本中国珍蔵宋元画精品展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部調査研究課長<br>富田　淳 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 9 月 28 日(火)～11 月 23 日(火)（56 日間）<br>・会場　上海博物館（中華人民共和国・上海）<br>・主催　東京国立博物館、上海博物館<br>・作品件数　64 件（うち国宝 6 件、重要文化財 22 件、重要美術品 2 件）<br>・入場者数　331,275人（但し、当該期間の総入館者数）<br><br>当館所蔵品を中心に日本で収蔵される中国・宋元絵画の名品を、上海博物館が所蔵する宋元絵画とともに展示し、その意義や価値に迫り大好評を得ることができた。 | | | |
| 補足事項 | <br>会場風景 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 331,275 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-10

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　(10/11)<br>海外展　万国博覧会開催記念「鑑真と空海―日中文化交流の顕彰」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部調査研究課長<br>富田　淳 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 9 月 28 日(火)～11 月 23 日(火)（56 日間）<br>・会場　上海博物館（中華人民共和国・上海）<br>・主催　東京国立博物館、文化庁、上海博物館<br>・作品件数　3 件（うち国宝：1 件　重要文化財：2 件）<br>・入場者数　331,275人（但し、当該期間の総入館者数）<br><br>万国博覧会の開催を記念し、日中の文化交流に多大な功績のあった鑑真と空海に焦点を当てることによって、その業績を顕彰することで、各時代の日中の文化交流の一端を的確に示すことができた。 | | | |
| 補足事項 | <br>会場風景 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 331,275 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　2121-11

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　（11/11）<br>海外展「高麗仏画大展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部調査研究課長<br>富田　淳 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 22 年 10 月 12 日(火)～11 月 21 日(日)（42 日間）<br>・会場　国立中央博物館・企画展示室（大韓民国･ソウル）<br>・主催　国立中央博物館<br>・特別協力　東京国立博物館<br>・作品件数　108 件（うち重要文化財 11 件）<br>・入場者数　88,659人<br><br>東アジア美術の最高峰の一つである高麗仏画を日本、韓国、アメリカ、ヨーロッパから一堂に集め、その優れた特色を究明することで、高麗仏画研究に大きな足跡を残すことができた。 | | | |
| 補足事項 | <br><br>展覧会ポスター | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 88,659 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1） 展示の充実　②特別展(1/8)<br>特別展覧会「没後 400 年　長谷川等伯」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 美術室長　山本英男 |
| 実績・成果 | 桃山時代を代表する絵師、長谷川等伯の画業の全貌を紹介する史上最大規模の回顧展。国宝などの代表作はもちろん、初期から晩年までの遺作 75 件を展示することで、等伯芸術の魅力を堪能できる最高、最良の場となった。<br>・開催期間　22 年 4 月 10 日～5 月 9 日（27 日間）<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿<br>・陳列品総件数　75 件（うち国宝　3 件、重要文化財　30 件、重要美術品　1 件）<br>・入場者数　244,347 人（目標 130,000 人）<br>・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円<br>・アンケート結果　満足度　91%<br>・関連講座　３回 | | | |
| 補足事項 | ・展覧会開催の事前準備として、可能な限り広範かつ綿密な作品調査を行った。その結果、これまで皆無とされてきた等伯初期の金碧花鳥図屏風を発見し、展示することになった。また本作品については展覧会前に論文を執筆した関係から、メデイアでも大々的に報道されたため、展覧会入場者数の激増を招く要因の一つとなった。<br>・計３枚のポスター（プレポスター１、本ポスター２）および２種類のチラシを事前に作成し、宣伝に努めた。<br>・様々なメデイアで取り上げられるなどその関心は極めて高く、実質 27 日間という短期開催ながら約 24 万 5000 人の入場者数を記録した。一日平均入場者数 9049 人は、当館の展覧会では雪舟展（約 9200 人）に次ぐものである。<br>・一日平均入場者数9049人は当館の特別展示館の規模を考えた場合には、ほぼ最大限の数値であり、様々な努力（入退館時間の延長・民間会社による入場者の誘導・展示ケースの移動・解説題箋の簡潔化）を試みたにもかかわらず、常時、１～２時間の待ち時間（最大３時間）が生じた。もし会場が広ければ、３０万人くらいの入場者数は優に確保できたはずである。<br>・等伯作品および関連資料をすべて網羅した図録を作成したが、その内容は等伯研究の最先端を行くものであり、今後の研究に寄与する可能性大である。 | | | |

「長谷川等伯展　会場風景」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 244,347 人 | 130,000 人 | S | 経年変化 | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）準備に膨大な調査を実施し、それを反映した展示内容、図録などに高い評価を得た。入館者数も目標を大きく超える数となった。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展等　(2/8)<br>特別展観「没後 200 年記念　上田秋成」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | アソシエイトフェロー　水谷亜希 |
| 実績・成果 | 京都国立博物館と日本近世文学会が協力し、上田秋成の雅俗にわたる文事を集めるとともに、彼の交友圏にあった文人や画家たちの書画等をあわせて展示した。18 世紀後半、京都を中心とする上方の豊饒な文学・芸術の世界を、秋成という個性的な人物を軸として紹介するはじめての展観となった。<br>・開催期間　22 年 7 月 17 日～8 月 29 日（39 日間）<br>・会　　場　特別展示館　１～５室<br>・主　　催　京都国立博物館、日本近世文学会<br>・陳列品総件数　82 件<br>・入場者数　21,705 人（目標 20,000 人）<br>・入場料金　一般 800 円、大高生 500 円、中学生以下無料<br>・アンケート結果　満足度　78%<br>・関連講座　10 回 | | | |
| 補足事項 | ・怪異小説『雨月物語』の作者として有名な上田秋成であるが、俳諧・和歌・国学、煎茶の分野でも多くの著作を残し、同時代や後世の人々に多大な影響を与えたことは、あまり知られていなかった。本展観では、秋成の幅広い活動を紹介するとともに、交流のあった文人・画人の名品を展示し、18 世紀後半京都の空気を肌で体感できる展示となった。<br>・『雨月物語』（初版）や晩年の傑作『春雨物語』、随筆『胆大小心録』の自筆草稿など、重要作品が一同に会するはじめての機会となった。また、新発見作品 12 件をふくむ計 29 件が初公開作品であり、最新の調査・研究成果を反映した内容となった。<br>・展観を機に、秋成に再注目した観覧者から重要な新出作品についての情報提供を受け、今後の研究につながる大きな成果となった。<br>・関連イベントとして 7 月 30 日、8 月 6 日の 2 回にわたり屋外で映画「雨月物語」（溝口健二監督）の 16 ミリフィルムの上映会を行った。映画ファン層にも、展観や博物館に興味を持っていただくきっかけとなった。<br>・当館で開催する土曜講座、夏期講座の他に、日本近世文学会企画の関連行事として、西福寺での秋成忌にあわせた講演・演奏会、同志社女子大学での連続講演会が行われ、地域の方々の関心を呼んだ。 | | | |

「上田秋成」展チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 21,705 人 | 20,000 人 | A | 経年変化 | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展等(3/8)<br>特集陳列「新収品展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 主任研究員　永島明子 |
| 実績・成果 | 平成 20 年 4 月から 21 年 12 月までの寄贈品 122 件と購入品 9 件を披露した。寄贈品のうち 95 件は戦前の外交官、須磨弥吉郎氏の収集品であり、すでに当館に収蔵されている「須磨コレクション」を補完する。近代中国絵画のみならず、洋画や陶磁器なども含む。そのほか、縄文土器、重要美術品の古今集や後撰集、仏画、狩野山雪筆の屏風、曾我蕭白筆の掛軸、御所人形、漆器、振袖などが特別展示館の半分を埋め、当館の収集対象の多様性をよく示す展示となった。<br>・開催期間　22 年 7 月 17 日～8 月 29 日（39 日間）<br>・会　　場　特別展示館　6 ～10 室<br>・主　　催　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　99 件<br>・関連講座　1 回 | | | |
| 補足事項 | 新収品展は、これまでほぼ毎年、平常展示館の一～二室を用いて行なってきた小さな特集陳列であるが、平常展示館の建て替え工事のため、しばらく行なわれなかった。このたび、須磨コレクションの大きな寄贈もあり、特別展観「上田秋成」の同時開催として特別展示館で開催することとなった。そのため､広報も通常のモノクロ印刷ではなく､｢上田秋成｣展用のチラシやポスターの一区画を占め、展示設計も特別展会場用にディスプレイを設計した。ガラス貼りの作品キャプションを外注し、イヤホンガイドも用意しての大がかりな展示となった。質量ともに充実した御披露目展となり、寄贈者の方々や一般の来館者から好評を得ることができた。 | | | |

「特別展示館　第 9 室　展示風景」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | — | — | — | — | | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展等　(4/8)<br>特別展覧会「文化財保護法 60 年記念事業　高僧と袈裟―ころもを伝え こころを繋ぐ―」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 主任研究員　山川　曉 |
| 実績・成果 | 袈裟を通して日本の仏教と染織の歴史を辿る初の展覧会。袈裟のみならず、袈裟を着用した高僧の肖像画、袈裟の相伝文書を一堂に集め、製作年代がはっきりしない染織作品のうち基準となる作例を提示し、染織を通して東アジアの交流史を展望する初めての機会となった。<br>・開催期間　22 年 10 月 9 日～11 月 23 日（40 日間）<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館（自主展）<br>・陳列品総件数　121 件（うち国宝 15 件、重要文化財 41 件）<br>・海外からの出陳件数　2 件（中国・中国絲綢博物館）<br>・入場者数　19,297 人(目標 20,000 人)<br>・入場料金　一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 400 円<br>・アンケート結果　満足度84%<br>・関連講座　３回<br>・関連国際シンポジウム　１回 | | | |
| 補足事項 | ・担当者の十年間におよぶ調査・研究成果を反映し、未知の作品の紹介に努めるとともに、既知の作品については、作品分析、相伝過程の再検討を徹底し、見解を図録に反映させた。<br>・展覧会図録はすべて、日英の二ヶ国語表記とし、多くの人が展覧会内容を共有できるよう努めた。<br>・染織作品についてはすべて、顕微鏡による拡大写真と、二ヶ国語による組織分析を図録に掲載した。<br>・染織作品の分析用語として、近年世界で主流となりつつある米国方式を採用し、用語解説を二ヶ国語表記することにより、日本では未紹介の染織品分析の基礎を提示した。<br>・袈裟および織物の構造という、身近ではない主題を理解する一助として、小中学生向けワークシート「袈裟ってなあに？」を作成し、一般アンケートおよびモニターアンケートで好評価を得た。<br>・関連土曜講座を三回開催した。<br>・国際シンポジウム「染織にみる東アジア交流―宋・元・明時代の中国とその周辺―」は、中国・韓国・日本の染織研究者が一堂に会する貴重な機会となり、最新の情報による学術交流となった。<br>・自主展のため広報が行き届かず、また専門性の高い主題であったため、入館者数は目標値にわずかに至らなかったが、京都国立博物館で開催する意義の大きい展覧会であったと自負する。 | <br>「高僧と袈裟」展示風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 19,297 人 | 20,000 人 | B | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-5

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (5/8)<br>特別展覧会「上野コレクション寄贈 50 周年記念　筆墨精神 －中国書画の世界－」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 学芸部長　西上　実<br>上席研究員　赤尾栄慶 |
| 実績・成果 | 当館の中国書画の中核をなす上野コレクションの寄贈 50 周年を記念し、上野コレクションを中心にして関連する作品を加え、中国の書画の流れが俯瞰できるように構成した特別展覧会を開催した。<br>・開催期間　23 年 1 月 8 日～2 月 20 日（39 日間）<br>・会　　場　特別展示館　1～7 室<br>・主　　催　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　113 件（うち国宝 10 件、重要文化財 23 件、重要美術品 2 件）<br>・入場者数　37,535 人(目標 30,000 人)<br>・入場料金　一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 400 円<br>・アンケート結果　満足度88%<br>・関連講座　３回 | | | |
| 補足事項 | ・現在、上野家に所蔵されている国宝 3 件、重文 15 件も合わせて展示し、広い意味での上野コレクションの様子がわかるように展示した。<br>・中国の南北朝時代 5 世紀の仏典や『三国志』などの写本から 20 世紀の呉昌碩までを一同に展示し、中国の書画の流れが俯瞰できる展示内容とした。<br>・上野コレクションの柱のひとつである拓本については、三井記念美術館や東京国立博物館など国内有数の優品を合わせて展示した。<br>・明、清時代の書に関しては、可能な限り、読み本を掲示し、鑑賞の手助けとなるように配慮した。<br>・鑑賞の手引きとして、図版付き目録を作成したが、ほぼ 9 人に一冊という高い購買率をしめしたことはその関心と図版付き目録の完成度の高さを示している。<br>・上野家に所蔵されている国宝 3 件、重文 15 件の文化財が、展覧会終了後、当館の寄託品となったことも重要な成果の一つである。 | | | |

「筆墨精神」展示風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 37,535 人 | 30,000 人 | A | | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-6

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展等（6/8）<br>特集陳列「生誕 125 年記念　篆刻家　園田湖城」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 学芸部長　西上実 |
| 実績・成果 | 近代日本を代表する篆刻家の一人である園田湖城(1886-1968)の業績を回顧する展示。湖城が当館正面破風の額字を揮ごうしたつながりからの企画であり、篆刻の世界から近代京都の書画文化を紹介する初の機会となった。<br><br>・開催期間　23 年 1 月 8 日～2 月 20 日（39 日間）<br>・会　　場　特別展示館　8～10 室<br>・主　　催　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　169 件<br>・関連講座　１回<br>・関連イベント　１回（座談会「知られざる園田湖城の篆刻芸術」） | | | |
| 補足事項 | ・日本の博物館・美術館において、篆刻の展覧会がほとんど開催されないなかでの企画であり、園田湖城作品をとおして篆刻芸術の顕彰に資することができた。<br>・園田湖城と富岡鉄斎や橋本関雪ら京都の書画家との交流を、絵画作品とその刻印を合わせて展示し、詩書画篆刻という伝統的な芸術概念を再提示した。それにより、伝統を受け継ぐ近代京都文化の奥行きの広さを示した。<br>・湖城の篆刻作品のみならず、湖城収集の中国書画や印章も展示し、湖城が理想とした明清の文人文化を再現。近代日本において中国文化への関心の高さを実証し、日中文化交流の意義を提示した。<br>・約 110 件の篆刻作品には、印影と側款の拓本を添え、実際の印面と対照できるようにして、鑑賞の助けとしたが、展示ケースの構造上、拡大鏡などを置くことができず、小さな印章を鑑賞するには若干の困難がともなった。 | <br>「園田湖城」展示風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 2122-7

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等　(7/8)<br>研究成果特別公開「古代の輝きを求めて　～デジタル計測でよみがえった古代青銅鏡の世界～」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　村上　隆 |
| 実績・成果 | ・開催期間　7 月 17 日～8 月 29 日(39 日間)<br>・会　　場　特別展示館　中央室<br>・主　　催　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　8 件　(復元品 2 点を含む)<br>・実演デモ：2 回 | | | |
| 補足事項 | ・京都国立博物館では館蔵品に対するデジタルアーカイブ化を推進している。その成果の一部をタイムリーに一般公開する機会を設けた。<br>・厚く覆われたサビの上からしか見たことがなかった青銅鏡を<br>正確な計測データをもとに形状をバーチャルに復元し、さらに分析によって得られたオリジナルな成分に基づく色で仕上げた。これにより、これまで想像できなかったオリジナルな古代の鏡の実態に近づくことができた。<br>・また、実際の金属板をオリジナルな形状に仕上げ、研磨した鏡面を復元することにより、鏡としての機能を再現することも試み、成果品を展示した。観覧者も自分の顔を映して、古代の鏡の雰囲気を体験することができ、好評を得た。<br>・実際の計測機を用いたデモを行い、実際の計測を味わってもらうことも実施した。 | | | |

「古代の輝きを求めて」ポスター

展示風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-8

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （１）　展示の充実　②特別展等　(8/8)<br>京都国立博物館所蔵能装束展（金沢能楽美術館） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 工芸室長　尾野善裕 |
| 実績・成果 | 平成 22 年度計画の中には当初盛り込まれていなかった事業であるが、能楽関係美術品の展示・保存を専門とする開催館からの要請を受け、京都国立博物館平常展示館休館中の所蔵品の活用・公開促進を図るために実施した。開催館での特別展覧会としては、史上２位の総入館者数を記録するなど、大いに好評を得た。<br><br>・展覧会名称　京都国立博物館所蔵能装束展<br>・開催期間　4 月 17 日～5 月 30 日（38 日間）<br>・会場　金沢能楽美術館 2 階　メイン展示室<br>・主催　金沢能楽美術館・京都国立博物館<br>・陳列品総件数　18 件<br>・入場者数　4,761 人<br>・入場料金　一般・大学生 300 円、65 歳以上 200 円、高校生以下無料<br>・アンケート結果　満足度 96％ | | | |
| 補足事項 | ・本展覧会では、加賀藩 13 代藩主前田斉泰が妹・厚姫の嫁ぎ先である会津藩主･松平容敬より贈られた生地を用いて仕立てた〈黄地唐花文様綴錦半切〉など、開催館の性格・地理的条件を特に考慮した展示品選定を行った。<br>・来館者に対するアンケートでは、74％が大変良いと回答しており、良いも含めると 96％という極めて高い満足度であったと共に、否定的な評価（悪い）が皆無であったことが注目される。 | | | |

「京都国立博物館所蔵能装束展チラシ」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 4,761 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展　(1/4)<br>「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」 | | |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課　学芸部企画室 | 事業責任者 | 企画室長　稲本泰生 |
| 実績・成果 | ・会期　平成 22 年 4 月 3 日（土）～6 月 20 日（日）　(69 日間)<br>・会場　奈良国立博物館東新館・本館<br>・主催　奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK 奈良放送局、NHK プラネット近畿<br>・共催　平城遷都 1300 年記念事業協会、仏教美術協会<br>・後援　文化庁<br>・協賛　岩谷産業、大阪芸術大学、関西電力、大日本印刷、大和ハウス工業、ニッセイ同和損害保険、非破壊検査<br>・協力　日本香堂、日本航空、日本貨物航空、近畿日本鉄道、JR 西日本、寧波旅日同郷会<br>・陳列品総数　261 件（うち国宝 42 件、重要文化財 87 件、米国からの出陳 5 件、中国からの出陳 15 件）<br>・入場者数　202,166 人（目標 120,000 人）<br>・観覧料金　一般 1400 円、高・大生 1,000 円、小・中生 500 円<br>・アンケート結果　満足度 84.6% | | |
| 補足事項 | ・平城遷都 1300 年を記念して企画された特別展。国内外から第一級の関連文化財を集め、約 300 年に及ぶ遣唐使の歴史を空前の規模で紹介する初の試みとして注目を集めた。<br>・同時代の日本と唐を代表する観音像として常に比較されてきた、薬師寺聖観音像（国宝）と米国ペンシルバニア大学博物館・観音菩薩像の二体並んでの展示や、ボストン美術館「吉備大臣入唐絵巻」第 1・4 巻の 27 年ぶりの里帰りなどが話題を呼び、一般からも専門家からも高評価を得た。<br>・共催メディアとともに効果的な広報を展開し、「正倉院展」を除けば当館史上 4 位となる入館者数を記録した。<br>・展覧会図録は会期中に増刷し、総計 13,016 部の売り上げを記録した。<br>・「吉備大臣入唐絵巻」全巻の高精細画像に基づくデジタルコンテンツ（株・大日本印刷による撮影・制作）、及び遣唐使をテーマとした NHK 制作の展示映像を監修し、会期中に地下回廊で公開した。<br>・会期中に公開講座を 4 回、トークイベントを 2 回開催した。5 月 15 日には遣唐使研究の第一人者である東野治之氏（奈良大学教授）を講師として特別講演会（奈良県新公会堂能楽ホール、参加者 316 名）を、6 月 5 日には国際学術シンポジウム「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」（当館講堂、参加者 148 名）を開催した。また館外諸会場（関西一円）で開催された NHK 公開セミナーにて、展覧会担当者による、遣唐使をテーマにした講演を行った（計 5 回実施）。 | <br>大遣唐使展チラシ |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 202,166 人 | 120,000 人 | S | | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>出陳品の質・量、話題性などで非常に注目された展覧会であり、当初目標を大幅に上回る入場者があった。またテーマの今日性、内容の深さなどの面でも、各方面から高い評価を受けた。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展 (2/4)<br>なら仏像館開幕記念特別展「至宝の仏像」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 部長補佐　岩田茂樹 |
| 実績・成果 | ・会　期　7月21日～9月26日（60日間）<br>・会　場　奈良国立博物館　なら仏像館<br>・主　催　奈良国立博物館<br>・特別協力　読売新聞社<br>・協　力　東大寺、日本香堂、仏教美術協会<br>・後　援　文化庁<br>・陳列品総数　99件（国宝7件、重要文化財57件）<br>・入場者数　81,342人（目標10,000人）<br>・観覧料金　一般1,000円　高・大生　700円<br>・アンケート結果　満足度　86.9% | | | |
| 補足事項 | ・本展覧会は、7月21日から名称も新たにリニューアルオープンした「なら仏像館」の開幕記念として開催したもので、奈良国立博物館に寄託されている仏像や奈良国立博物館の所蔵する仏像のなかから、選りすぐりの名品を展示した。<br>・期を同じくして、東大寺法華堂須弥壇の耐震工事にともない、同堂の国宝・脱活乾漆金剛力士立像が当館に寄託されたので、所蔵者の了解を得て、これを特別公開することができた。多くの観覧者より本像の魅力を再認識することができたとの意見が寄せられ、その展示は好評を博した。<br>・本展の会場となった「なら仏像館」は、「旧帝国奈良博物館本館」として重要文化財指定を受けた明治時代を代表する洋風建築であるが、その魅力をより強く発信するため、西入口ロビーを整備するとともに新規照明を導入して、室内の装飾の美しさや、重厚な空間を観覧いただけるよう一新し、これを休憩室として公開した。<br>・仏像展示室においても、スポット照明のための配線ダクト工事を全室に及ぼした結果、各仏像の表情などがより魅力的に引き出すことができるようになりアンケート等でも高い評価を得た。一方で、像の大きさや展示室の形状等の理由から、なお照明が十全でない箇所については、追加工事を行い、改善に努めた。<br>・図録の販売数は5,000冊を数え、好評を博した。<br>・会期中に実施された夏季講座「仏像修理100年と仏像研究の現在」において、本展に関連する３つの講座を設け、本展の理解を深めることができた。 | <br>特別展「至宝の仏像」会場風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 81,342人 | 10,000人 | S | 経年変化 | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）当初目標を大きく上回る入場者があり、アンケートによる評価も非常に高かった。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展 (3/4)<br>特別展「仏像修理 100 年」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 実績・成果 | ・会　　期　　7 月 21 日（水）～9 月 26 日（日）　　(60 日間)<br>・会　　場　　奈良国立博物館　東新館<br>・主　　催　　奈良国立博物館<br>・特別協力　　財団法人美術院　読売新聞社<br>・後　　援　　文化庁<br>・協　　力　　東大寺　日本香堂　仏教美術協会<br>・陳列品総数　97 件　(国宝 3 件、重要文化財 10 件)<br>・入場者数　　81,342 人（「至宝の仏像」と一体でカウント）<br>・観覧料金　　一般 1,000 円　高・大生 700 円<br>・アンケート結果　満足度 87.9% | | | |
| 補足事項 | ・本展覧会は、近代の仏像修理が始まった明治 31 年（1898）から今日にいたる約 110 年余りの歴史を振り返り、記憶しておくべき修理などをトピック風に紹介したものである。さらに長年修理に携わった技術者たちの伝統的修理技術の継承および新材料の改良・工夫などの視点も加えた修理の歴史を、展示という手法で本格的にたどるのは史上初めての試みである。<br>・展示内容の分かりやすさと、保存修理という視点から仏像を鑑賞するという展示手法も好評で、文化財の保存の関心をさらに高める上でも高い評価を得ている。<br>・近代修理に最初から携わってきた美術院（現在財団法人）の特別協力を得て、修理された仏像の他に、修理途中で製作された模型・模造、図面および写真等も併せて展示しており、文化財保存修理の質の高さを紹介する上でも重要な展覧会となった意義は大きい。<br>・触れる展示コーナーを設け、日本の木の仏像の主な用材（樟、榧、および檜）を用いて荒彫りした仏像（美術院製作）も展示し、あわせて同じ種類の木端（こっぱ）を傍に置いて、木の堅さ、匂い、木の色などを体感する企画を実施した。木端（美術院提供）の持ち帰り可能も観覧者に好評で、老若男女に新鮮な驚きでもって受け入れられた。<br>・図録の販売部数は予想を越えて 4,404 冊を数え、二度の増刷をするほどの盛況を得た。<br>・展示開催中に公開講座（２回）および夏季講座（講師４名）を実施し、文化財修理に携わってきた専門家の生の言葉を通して、文化財保存および展示の理解を深めた。<br>・さらに会期中、当館文化財保存修理所内の美術院工房の特別見学を二日実施し（9 月 8 日、15 日　見学者総数 237 名）当展覧会の意義を高めた。 | | | |

仏像修理 100 年展　入口看板

さわれる展示コーナー風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 81,342 人 | 10,000 人 | S | | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>(S､F の理由)当初目標を大きく上回る入場者があり、アンケートによる評価も非常に高かった。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 2123-4

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展（4/4）<br>第 62 回正倉院展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 部長補佐　内藤　栄 |
| 実績・成果 | ・会期　　10 月 23 日～11 月 11 日（20 日間）<br>・会場　　奈良国立博物館　東新館・西新館<br>・主催　　奈良国立博物館<br>・特別協力　　読売新聞社<br>・協力　　NHK 奈良放送局、小学館「和樂」編集部、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会<br>・協賛　　NTT 西日本、近畿日本鉄道、JR 東海、JR 西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、日本生命、白鶴酒造<br>・出陳宝物数　　71 件<br>・入館者数　　294,804 人<br>・観覧料金　　一般 1000 円　高大生 700 円　小中生 400 円<br>・アンケート結果　　満足度 77.1％ | | | |
| 補足事項 | ・正倉院宝物を代表する名品として名高い、『螺鈿紫檀五絃琵琶』をはじめ、『種々薬帳』、『繧繝鞋』、『銀壺』など 71 件の宝物を展示した。その中には聖武天皇遺愛品である鳥獣花背八角鏡など 14 件の初出陳品も含まれ、新資料を提示することもできた。<br>・今年度より西新館の展示ケースが一新され、宝物への安全性、鑑賞しやすさが向上したほか、西新館では従来つまずく危険のあった床配線も床下に配備され、観覧者への配慮が向上した。<br>・ケースは気密性の高く、温度変化の少ない LED 照明が採用され、おおむね良好な展示環境を実現することができた。とりわけ、LED 照明は低い照度でも鑑賞しやすいという効果があり、また新しく採用した光ファイバー照明も十分に効果を発揮した。<br>・また、西新館の新ケース前には観覧者の安全と宝物の保全を考慮し手摺を新設したが、ケース内の環境を保全したほか、ガラスに手垢がつかず、人垣の後方からも鑑賞しやすいなどの効果があり、さらに混雑した会場でも観覧者の安全性を増すことができた。<br>・展示会場も従来と比較すると格段に明るくなり、観覧者の安全性を高めることができた。そのほか、観覧者へのサービスの一環として休憩室も新設した。<br>・国立博物館として初めて託児所を開設し、好評を得た。<br>・20 日間の会期で 29 万人を超える観覧者が訪れ、人気のある宝物の周囲には多くの人垣ができていたが、整理の人員を配置することで大きなトラブルもなく多人数の観覧を行うことができた。<br>・西新館のリニューアルに伴い、１階にトイレが新設されたほか、国立博物館としては初めて託児所を開設し、好評を得た。 | | | |

螺鈿紫檀五絃琵琶の展示風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 294,804 人 | 180,000 人 | S | | 248,389 | 263,765 | 299,294<br>(20 日間) | 294,804<br>(20 日間) |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）　　年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　　②　特別展等（1/5）<br>「パリに咲いた古伊万里の華」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |
| 実績・成果 | ・開会期間：　4 月 6 日（火）～6 月 13 日（日）（61 日間）<br>・会場：　九州国立博物館　特別展示室<br>・主催：　九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送<br>・陳列品総件数：　165　件<br>・入場者数：　84,738 人（目標入場者数　50,000 人）<br>・入場料金：　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円<br>・アンケート結果：満足度　95％ | | | |
| 補足事項 | ・17 世紀後半から 18 世紀前半にかけて、ヨーロッパへ輸出されて人気を博した伊万里磁器を、「第１章　欧州輸出の始まりと活況」、「第２章　好評を博した日本磁器の優美」、「第３章　宮殿を飾る絢爛豪華な大作」、そして「第４章　欧州輸出の衰退」という構成で展示した。<br>・本展に出陳された 165 点の古伊万里はすべて、フランス・パリに在住するコレクター、碓井文夫氏のコレクションである。ヨーロッパに渡った古伊万里を偏りなく収集した同氏のコレクションは、すべて日本初公開のものであり、輸出古伊万里の全体像を伝えることができた。<br>・古伊万里がどのようにヨーロッパで愛されたのかを紹介するために、東洋の磁器を飾った空間で有名なドイツ・シャルロッテンブルク宮殿「磁器の間」を再現して展示するなど、展示について工夫を凝らした。<br>・歴史背景や伊万里磁器の製作技法をわかりやすく解説した「解説パネル」を制作し、展示室内に掲示した。また、古伊万里の技法を体験的に理解してもらうため，親子向けのワークショップ「えをかこう、いろをぬろう」、「金ピカにかざっちゃえ」をおこない、展示への理解を深める教育普及活動をおこなった。<br>・「ポプリの香り体験コーナー」を設置した。これらは巡回先（MOA 美術館，兵庫陶芸美術館）へも引き継がれ，好評を得た。<br>・14 代酒井田柿右衛門氏、大橋康二氏の講演会を開催し、大変な好評を博した。<br>・テレビ番組「パリに咲いた古伊万里の華　ヨーロッパを魅了した NIPPON の美」を制作、期間中に放映した。 | <br>「磁器の間」を再現した展示室<br> <br>技法を解説したパネル | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 84,738 人 | 50,000 人 | S | | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　　②　特別展等（2/5）<br>「馬　アジアを駆けた二千年」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化交流展室長　河野一隆 |
| 実績・成果 | ・開会期間：　7 月 13 日（火）～9 月 5 日（日）（48 日間）<br>・会　　場：　九州国立博物館　特別展示室<br>・主　　催：　九州国立博物館・福岡県、（財）全国競馬・畜産振興会、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送<br>・陳列品総件数：　133 件（国宝 23 件、重文 24 件、中国国家一級文物 4 件）<br>・入場者数：　42,022 人（目標入場者数　50,000 人）<br>・入場料金：一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円<br>・アンケート結果：満足度　80％ | | | |
| 補足事項 | ・東アジアの馬に関する文化を総合的に展示した。展示構成は第１章「人と馬との出会い」、第２章「アジアを駆けた馬」、第３章「黄金の馬」、第４章「神馬の誕生」、特別エリア「近代競馬のあゆみ」の５章からなる。<br>・馬の文化について特に文化交流の観点から紹介するため、中国・韓国の博物館が所蔵する資料から日本初公開をふくむ 23 点を借用し、国内外の最新の調査成果を交えながら展示した。また国宝・奈良県藤ノ木古墳出土の馬具を九州で初めて展示した。なお、展示予定であった鉄地金銅張杏葉の一部について、輸送中に毀損していたことが展示作業に伴う開梱点検時に判明した。速やかに関係機関等に報告するとともに、修理等について指導を仰いだ。その後、当館にて修理を行い、借用先へと無事返送を行なった。<br>・学術講演としてシンポジウム「藤ノ木古墳の馬具」（7 月 18 日、千賀久氏・鈴木勉氏ほか）、講演会（7 月 31 日、末崎真澄氏・川嶋舟氏）などを、関連事業としてミュージアム「馬」セミナー　（7 月 25 日、楠瀬良氏、8 月 1 日、石田信繁氏）を実施した。<br>・教育普及として、展示室導入部に「教育普及コーナー」を設置し、グラフィックや模型を用いて馬の生態と馬具の歴史や機能を紹介した。また，馬を身近に感じてもらうため，馬に関する雑学を紹介する解説パネル「おしえてギャロップ」も設置した。館外広場で（財）全国競馬・畜産振興会とともに「九博で本物の馬と仲良しになろう　ポニーとのふれあいイベント」（毎週・木・土・日曜日）などを実施した。 | | | |

藤ノ木古墳馬具　展示風景

埴輪馬　展示風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 42,022 人 | 50,000 人 | B | | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　　②　特別展等（3/5）<br>「誕生！中国文明」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 企画課長　小泉惠英 |
| 実績・成果 | ・開会期間：　平成 22 年 10 月 5 日（火）～11 月 28 日（日）（48 日間）<br>・会　　場：　九州国立博物館　特別展示室<br>・主　　催：　九州国立博物館・福岡県、読売新聞社、ＦＢＳ福岡放送、中国河南省文物局<br>・陳列品総件数：147 件（中国国家一級文物 63 件）<br>・入場者数：　53,409 人（目標　90,000 人）<br>・観覧料：一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円<br>・アンケート結果：満足度　89% | | | |
| 補足事項 | ・展示構成：幻の王朝といわれる夏王朝をはじめ中国歴代王朝の多くが都を置いた河南省に焦点を当て、３つのテーマから中国文明の様々な文物を総合的に展示した。展示構成は第１部「王朝の誕生」、第２部「技の誕生」、第３部「美の誕生」の３部からなる。<br><br>・河南省下の博物館が所蔵する資料から日本初公開を多く含む 147 件を借用し、これまでにない切り口から中国文明の多彩な魅力を紹介した。<br><br>・講演会として「三国志をめぐる謎」（10 月 5 日、三好徹氏）、「文字の発生と歩み」（11 月 14 日、新井光風氏）、「王朝、技、美の誕生―中国河南省が生み出した芸術と文化―」（10 月 24 日、小泉惠英、市元塁）を開催。また、関連事業として、「中国王朝への旅―胡弓の調べにのせて―」（10 月 9 日、趙国良氏）、「中国伝統音楽からクラシックまで」（11 月 6 日、九州交響楽団）などを実施した。<br><br>・教育普及活動として、展示室に出陳作品に関わる漢字の豆知識を紹介するシリーズ「カンジちゃいな」、玉の製造工程を示した解説パネルなどを作成した。そのほか、玉器の加工の難しさを感じていただくため、「玉の原石に錐で穴を開ける体験コーナー」を設置し、好評を博した。これらは巡回先（奈良国立博物館）へも引き継がれた。 | <br>金縷玉衣　展示風景<br> <br>宝冠如来　展示風景<br> <br>玉穴あけ体験コーナー | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 53,409 人 | 90,000 人 | C | | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　A　Ⓑ　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | ほぼ順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　　②　特別展等（4/5）<br>「没後 120 年　ゴッホ展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化財課長　臺信祐爾 |
| 実績・成果 | ・　開会期間：平成 23 年 1 月 1 日（土）～2 月 13 日（日）（42 日間）<br>・　会場：　九州国立博物館　特別展示室<br>・　主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送<br>・　陳列品総件数：　122 件<br>・　入場者数：　354,311 人（目標入場者数　110,000 人）<br>・　入場料金：　一般　1,500 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円<br>・　アンケート結果：満足度　85％ | | | |
| 補足事項 | ・　フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890 年）の没後 120 年に際し、初期から晩年までのゴッホ作品 68 点および同時代の絵画作品などを含む計 122 点を展示した。構成は、第 1 章「伝統」、第 2 章「若き芸術家の誕生」、第 3 章「色彩理論と人体の研究」、第 4 章「パリのモダニズム」、第 5 章「真のモダンアーティストの誕生」、第 6 章「さらなる探求と様式の展開」とした。<br>・　ファン･ゴッホが自らの様式と技法を発展させる上で参考にした同時代の画家の作品や､道具や材料などに加えて収集していた浮世絵も展示し､ゴッホの創作方法について観覧者に理解を促した。<br>・　絵画に描かれたゴッホの寝室を再現展示することで､より具体的に観覧者がイメージできるように工夫した。<br>・　教育普及を目指した配布物として「ゴッホメモ」を作成し、ゴッホについてわかりやすく紹介した。また、この「ゴッホメモ」は、混雑対策としても活用できた。<br>・　圀府寺司氏（大阪大学文学研究科教授）､深谷克典氏（名古屋市美術館学芸課長）の講演や、映画上映会、日展作家による作品展、自画像コンクール、ヒマワリの種を使ったモザイクアートなど､多数のイベントを開催し、大変な好評を博した。 | | | |

展示室風景

油彩画「アルルの寝室」を再現展示

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 354,311 人 | 110,000 人 | S | | － | － | － | － |

| 年度実績<br>評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>当館初めての西洋絵画展として､浮世絵を通じてわが国に強い憧れを抱いていたゴッホを取り上げた｡現代美術にも大きな影響を及ぼしているゴッホの創造の秘密に迫る質の高い展覧会として各方面から高い評価を得た。また共催者とともにさまざまな広報戦略を展開したため、予想を大幅に超える入場者があった。 |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 特別展等については､国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 達成 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-5

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　展示の充実　　②　特別展等（5/5）<br>アジア友好日本古美術海外展「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 企画課長　小泉惠英 |
| 実績・成果 | ・　開会期間：平成 23 年 1 月 15 日（土）～3 月 13 日（日）月・火休館（41 日間）<br>・　会場：　タイ王国バンコク国立博物館<br>・　主催：　文化庁、九州国立博物館・福岡県、タイ王国文化省芸術局<br>・　陳列品総件数：日本側：56 件（うち国宝 2 件、重要文化財 7 件、重要美術品 2 件)、<br>タイ側：51 件<br>・　入場者数：　21,525 人<br>・　入場料金：　一般 50 バーツ、学生 無料<br>・　アンケート結果：実施していない | | | |
| 補足事項 | ・展示構成：<br>第一章「ふたつの国のはじまり」では、日本とタイ、ふたつの国の形成を発掘された遺跡や考古遺品を通して紹介した。稲作文化、死者の葬送儀礼など、生活や信仰の面から両国の文化を比較するための文化財を展示した。第二章「ふたつの国の仏教」では、古来ともに仏教を篤く信仰してきた両国の仏教美術の名品を展示した。第三章「ふたつの国の出会い」では、交易に焦点をあて、日本とタイの出会いにさかのぼり、ふたつの国の出会いから生まれた工芸品や同時代の歴史資料を紹介した。第四章「現代を生きる伝統」では、様々な文化交流を背景に発達してきた日本とタイの伝統工芸について、現代に息づく技とその作品を紹介した。<br>本展覧会は、2007 年から始まったタイ王国国立博物館との交流事業を通して計画された。なお、本展は文化庁が日本文化の紹介と国際親善のために、毎年、海外で開催する日本古美術展のひとつでもある。<br><br>九州国立博物館の支援団体である九州国立博物館を愛する会､九博ボランティアとタイ在住ボランティアの協力を得て、日本の伝統的な遊戯を紹介するワークショップを実施した。<br>日本の伝統工芸の１つである久留米絣の制作に関して、日本より招聘した絣制作作家の協力を得てバンコク国立博物館内でワークショップを実施した。 | | | |

バンコク国立博物館

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 21,525 人 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2130

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報活動の取組み | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績･成果 | ・法人の『平成 22 年度概要』を 22 年 7 月に発行し、PDF 版をウェブ掲載した。<br>・法人の『平成 21 年度年報』を 23 年 3 月に発行し、PDF 版をウェブ掲載した。<br>・法人ウェブサイト(http://www.nich.go.jp)のリニューアルを、23 年 4 月 1 日オープンに向けて進めた。特に、掲載情報の整理・分類を重点的に行い、利用者が必要とする情報にアクセスしやすくなるよう配慮した。また、機構の全体像が一目で分かるようトップページに各施設の画像を配するとともに、簡易な英文ページを追加した。 | | | |
| 補足事項 | ・『平成 22 年度概要』: 2,750 部、カラー44 ページ、和英併記。<br>・『平成 21 年度年報』: 280 部、1,081 ページ。<br>・年報の印刷は、震災の影響により印刷会社に紙が入荷しない時期と重なったが、納品が 10 日程度遅れるのみで、年度内に発行することができた。<br> <br><br>『平成 22 年度概要』<br> <br><br>リニューアルサイトのトップページ | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | — | — | — | — | | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報活動の取組み | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部広報室 | 事業責任者 | 広報室長　小林　牧 |
| 実績･成果 | ・平常展の活性化を目指した広報を行った。<br>・東京国立博物館ニュース、総合パンフレット（7ヶ国語）、フロアガイド（4ヶ国語）、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。新たに構内マップ(日英 2 カ国語)を作成、正門前に設置した。<br>・モバイルサイトを開設し、5月6日より公開した。<br>・ウェブサイトについて 2011 年 4 月オープンを目指して、全面リニューアルを行っている。<br>・博物館情報をメールマガジンにより配信した。<br>・2011 年 1 月 2 日本館リニューアルオープン、平常展から総合文化展への改名をきっかけとした[トーハク？]キャンペーンを実施。タレントを起用したイメージポスターを製作し、交通広告、新聞広告などで大規模な広報展開をはかり、来館者増に貢献した。<br>・マスコミ媒体と連携した PR を行った。<br>・共催者、ＰＲ会社と協力し特別展の大規模プロモートを実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・特集陳列「拓本とその流転」(2011 年 3 月 15 日～5 月 15 日）開催にあたり、台東区立書道博物館と連携して、報道内覧会、周知印刷物の制作、DM、交通広告を行なった。<br>・「月刊うえの」「展覧会ガイド」等で収蔵品を紹介する連載ページを確保。<br>・約 280 媒体にほぼ隔月 1 回プレスリリースを送付、その他美術記者クラブ等に臨時のリリースを配信するなど、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。マスコミの取材･撮影･写真貸出し等対応約 270 件（特別展ＰＲ事務局窓口分含まず)。<br> <br>リニューアルキャンペーンポスター | | | |

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館ニュースの発行 | 6 回 | 6 回 | A | 経 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| ウェブサイトの更新 | 5138 回 | － | － | 年 | 4,547 | 3,616 | 5,576 | 5,138 |
| 電子メールマガジン配信 | 38 回 | － | － | 変 | 57 | 53 | 57 | 38 |
| 登録者数 | 17,727 名 | － | － | 化 | 16,758 | 14,237 | 16,508 | 17,727 |
| 総合パンフレット作成 | 7ヶ国語 | 7ヶ国語 | A | | 7ヶ国語 | 7ヶ国語 | 7ヶ国語 | 7ヶ国語 |
| フロアガイド作成 | 4ヶ国語 | 4ヶ国語 | A | | 4ヶ国語 | 4ヶ国語 | 4ヶ国語 | 4ヶ国語 |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）本館リニューアルに伴う[トーハク？]キャンペーンで館の認知度をあげ、来館者増に貢献した。「博物館に初もうで」の入館者数は、21,724 人(22 年 1 月)から 62,400 人(23 年 1 月)に増加した。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2132

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）　展示の充実　③展覧会広報活動の取組み | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | ・「博物館だより」の発行・配布（4回）した。<br>・「Newsletter」の発行・配布（4回）した。<br>・モバイルサイトによる情報提供をした。<br>・「館内案内」リーフレット（6ヶ国語）の作成・配布した。<br>・東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開した。<br>・京都市内４館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館）の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。<br>・マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。<br>・各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。<br>・展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催した。<br>・「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布した。<br>・メールマガジンを発行（15回）した。<br>・ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）をした。 | | | |
| 補足事項 | ・「博物館だより」は、年4回、それぞれ1万5,000部から2万5,000部発行（季節による入館者見込により増減）し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。<br>・「Newsletter」は、「博物館だより」の英語版として年４回発行し、配布している。第 110 号発行を機に、デザインを一新し、全面カラー化したことにより、より親しみやすい英語版広報誌となり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。 | | | |

「Newsletter vol.110」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 博物館だよりの発行 | 4回 | 4回 | A | 経年変化 | 4回 | 4回 | 4回 | 4回 |
| | Newsletterの発行 | 4回 | 4回 | A | | 4回 | 4回 | 4回 | 4回 |
| | 展示案内リーフレットの作成 | 6ヶ国語 | 6ヶ国語 | A | | 6ヶ国語 | 6ヶ国語 | 6ヶ国語 | 6ヶ国語 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入場者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2133

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報活動の取組み | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 総括専門職員　吉田貴至 |

**実績・成果**

・奈良国立博物館だより　年 4 回発行した。
・奈良国立博物館展示案内を発行した。
・特別展「大遣唐使展」、「仏像修理 100 年」、「至宝の仏像」及び「第 62 回正倉院展」、の広報のため、ポスター（B1、B2、B3）、チラシを作成した。
・特別展では開催約 1 ヶ月前に記者発表を行った。
・特別展、特別陳列の会期前日にプレスプレビューを行った。
・「正倉院展」をはじめ、特別展・特別陳列では、JR 西日本、近鉄、阪神電車とタイアップ広報を行った。
・特別展「大遣唐使展」では、ツイッターによる展覧会情報の発信を行った。
・電子メールマガジンによる博物館情報の発信　配信回数 12 回、登録者 6,079 人
・奈良国立博物館リーフレット（7 ヶ国語）発行した。
日本語 80,000 部,英語 11,500 部、韓国語 6,500 部、中国語 3,500 部、仏・独・西語各 1,000 部
・(社) 平城遷都 1300 年記念事業協会発行の「せんとくんクーポン」に協力、観覧料金の割引を行った。
・特別展「仏像修理 100 年」・「至宝の仏像」では、割引引換券を作成し、観光案内施設等で配布した。
・液晶ディスプレイによる有効な情報提供の方策を検討した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」「お水取り」では、ポスター（B2）を作成、観覧料金の割引券付きチラシを作成し、春日大社、東大寺、観光案内施設等で配布した。
・仏像ガールさんを文化大使に任命、ブログ等で展覧会情報等を発信してもらった。
・新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。
・「正倉院展」において、読売新聞社主催の「歴史フォーラム 2010」が東京、大阪で開催、「正倉院展の楽しみ方」が名古屋、福岡で開催された。

**補足事項**

特別展「大遣唐使展」
　読売新聞　新聞紙上における連載、特集、記事等の掲載ポスター、看板を主要駅に掲出
ＮＨＫ　日曜美術館、ラジオ深夜便、展覧会情報のスポット放送、ニュース
特別展「仏像修理 100 年」
　ＮＨＫ　ニュース
特別展「第 62 回正倉院展」
　読売新聞　新聞紙上における連載、特集、記事等の掲載
　ポスター、看板を東京駅等主要駅に掲出
　ＮＨＫ　日曜美術館、ラジオ深夜便、ニュース
　朝日放送　正倉院展特番２０１０

「仏像修理 100 年」、なら仏像館開幕記念「至宝の仏像」割引引換券

割引券付きチラシ　↑
（裏面の最下段に割引券がついている）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 博物館だより発行 | 4 回 | 4 回 | A | 経年変化 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| メールマガジン登録者数 | 6,057 件 | － | － | | 3,413 | 3,978 | 4,970 | 6,057 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Ｆの理由）

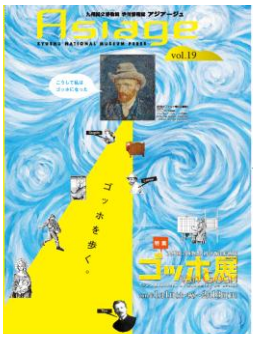
**中期計画記載事項**

個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③ 展覧会広報活動の取組み | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課<br><br>広報課<br>総務課 | 事業責任者 | 企画課長　小泉惠英<br>文化交流展室長　河野一隆<br>広報課長　不動勝義<br>総務課長　岩﨑英明 | |
| 実績・成果 | ①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。<br>②特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。特別展のＴＶ番組「パリに咲いた古伊万里の華」を制作、放送した。<br>③「九州国立博物館季刊情報誌アジア―ジュ」の発行（年４回　４月１日号、７月１日号、10月１日号、１月１日号）<br>④展示リストの検索・紹介、展示情報発信のためのウェブデータベースの整備を行った。ウェブサイトによる情報提供を行った。（日本語・英語）（随時更新）<br>⑤地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。<br>⑥九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。<br>⑦テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、年間を通じ新聞広告掲載を実施するなど、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。<br>⑧文化交流展示室の展示作品の広報ＴＶ番組「九博のたからもの」を制作、放送した。<br>⑨開館５周年を記念したイベント等を行った。 | | | | |
| 補足事項 | ②特別展では、ポスター・チラシを制作。うち２回の展覧会で先行・本チラシおよび先行・本ポスターと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシ・ポスターとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約 300 媒体と九州圏内の情報誌約 150 媒体に送付した。イベントやトピック展示の開催など 80 件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。<br>特別展ＴＶ番組「パリに咲いた古伊万里の華」を作成し、好評を得た。<br>⑤地元の市、商工会、観光協会等と例月の太宰府ブランド創造協議会等を開催し、情報を交換した。また、太宰府天満宮参道の商店や「九州国立博物館を愛する会」などを対象とする特別内覧会を実施した。<br>⑥九州観光推進機構を通じ、海外（韓国・中国・台湾・香港・タイ・シンガポール）に随時情報提供を行った。<br>⑦トピック展示として、滋賀県・滋賀県立琵琶湖文化館、徳川美術館および那覇市、津久見市の共同主催・協力等によって、当館の自主的な企画の枠を越える活性化した展示を提供すると同時に、地元諸機関を通じてひろく広報することができた。<br>⑧文化交流展示室の展示作品の広報ＴＶ番組（「九博のたからもの」）を制作、放送した。この番組は、九州国立博物館が所蔵または借用している作品１・２点を学芸員が紹介する短編番組（1 回 2 分 30 秒）を 22 回分制作し、RKB 放送にて 5/3 から 9/25 まで、毎週月曜夜 19:55 より放送した。（平均視聴率 8.6%）<br>⑨開館５周年記念式典を挙行、関連イベントとして九博大茶会、九州浄瑠璃フェスティバル、第５回九州地域ブランドフォーラム、パネル展九博のあゆみ、きゅーはくミュージアムコンサート博多芸妓の世界、九博ボランティアフェスタを実施。 | <br>「南蛮」ちらし(津久見市協力)<br>  <br>季刊情報誌アジアージュ | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行 | ４回 | ４回 | A | | 4 | 4 | 4 | 4 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2141

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　④黒田記念館収蔵品の公開機会の拡大 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・平成 23 年 2 月 1 日から 3 月 13 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝と京都」を開催した。 | | | |
| 補足事項 | ・特集陳列「黒田清輝と京都」では、黒田記念館収蔵品 30 件と当館絵画分野所属の絵画作品 1 件により、黒田と、彼にとって重要な制作の場となった京都とのかかわりを紹介した。 | | | |

特集陳列「黒田清輝と京都」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 特集陳列展示件数 | 31 件 | － | － | 経年変化 | 44 | 34 | 34 | 31 |
| | 内、黒田記念館収蔵品数 | 30 件 | － | － | | 44 | 18 | 31 | 30 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供（1/4） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室　伊藤信二 |

**実績・成果**

1）先導的事業のモデル化及び実践
・本館２０室を教育普及スペース「みどりのライオン」にガイダンス機能をもたせるとともに、展示に関連した各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開し、内容にあわせ小講堂・大講堂などでも事業を行った。
・教育普及的な手法を用いた特集陳列「親と子のギャラリー」として、「日本美術のつくり方 2」（6 月 15 日～7 月 25 日）、「博物館の音楽会」（8 月 3 日～9 月 5 日）を実施した。
・「日本美術のつくり方 2」、「博物館の音楽会」などの平常展示に関連して、おとなのためのワークショップ、ファミリーワークショップ、ハンズオンアクティビティを行った。
・本館２０室にて、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」（通年）を継続して実施した。
・ワークシートを用いたアクティビティ「東博ウサギめぐり＆掛軸ふうカレンダー」（平成 23 年 1 月 2 日・3 日）を実施した。
・教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」（22 年 3 月 24 日～4 月 11 日、23 年 3 月 29 日～4 月 17 日）を実施した。
・震災の影響による 23 年 3 月 12 日～3 月 28 日の臨時休館に伴い、ワークショップ 2 回を中止した。また、「博物館でお花見を」は 23 年 3 月 23 日から実施の予定であったが、23 年 3 月 29 日からとなった。

**補足事項**

展示との関連性の高い事業実施を通じ、関連展示の鑑賞を深め、伝統文化の理解の促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。

○本館２０室での体験型プログラム
本館８室「暮らしの調度」関連　日本のもようでデザインしよう(通年)
新春企画「博物館に初もうで」関連　東博ウサギめぐり＆掛軸ふうカレンダー(平成 23 年 1 月 2 日・3 日)
本館リニューアル記念特別公開関連　北斎の冨士を作ってみよう(平成 23 年 1 月 5 日～1 月 16 日)

○本館２０室以外で実施したプログラム
総合文化展展示関連
・ファミリーワークショップ　実施回数 8 回
・おとなのためのワークショップ　実施回数 5 回
・ハンズオンアクティビティ　実施回数 4 回
・イベント　実施回数 1 回

特別展展示関連
・ワークショップ　実施回数 2 回

本館１３室関連　ファミリーワークショップ
「からだが動くエビを作ってみよう」
自在置物を鑑賞し、その仕組みと歴史を勉強したあとに、作った自在エビを並べて発表会。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 体験型プログラム参加者数 | 101,622人 | － | － | | 113,492 | 75,675 | 124,785 | 101,622 |

**年度実績評価総括**　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**　学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

**中期計画に対して順調に成果を上げているか。**　順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供（2/4） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　伊藤信二 |

**実績・成果**

2)-1 学校との連携事業の推進

・小・中・高等学校を対象に、スクールプログラムを実施した。また就業体験の受け入れを行った。
・就業体験の受け入れを継続して行った。詳しくは処理番号 2221-1 を参照。
・高等学校の単位制授業の一環としてプログラムを提供した。
・将来の博物館研究員の養成を目的として大学院生を対象としたインターンシップを実施した。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会への協力、教員特別鑑賞会・ガイダンスなど、教員を対象とした研修を実施した。
・大学生および教育関連機関等の見学対応を行った。
・平成 22 年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備事業として盲学校のためのスクールプログラムの開発を行い、実際に盲学校の生徒(2 校 36 名)に対しプログラムを試行した。平成 23 年度より同プログラムを広く募集し実施する。
・震災の影響により、スクールプログラム 2 件(2 校 481 名)がキャンセルとなった。

**補足事項**

・スクールプログラムでは人数・学年・目的などに応じ、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど 11 のコースを設け、123 校 5,493 人に対して実施した。また就業体験プログラムには、33 校 131 名が参加した。
・高校生を対象とした連続講座（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）は、9 月 4 日、9 月 25 日、10 月 2 日の 3 日間実施し、13 名が参加した。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会の会員研修会(共催：東京藝術大学)は、7 月 28 日～7 月 30 日の 3 日間行われ、46 名が参加した。
・教員特別鑑賞会・ガイダンスは、4 月 23 日（特別展「細川家の至宝」）、7 月 9 日（特別展「誕生！中国文明」）、10 月 15 日（特別展「東大寺大仏」）の 3 回実施した。
・15 大学 22 名のインターンシップを受け入れ、7 月 22 日～23 年 3 月 31 日のうち、10～30 日の活動を行った。

スクールプログラム実施の様子
レクチャールームでのプログラム「はじめての東博」（本館 20 室）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スクールプログラム | 123 校 | － | － | | 187 校 | 133 校 | 163 校 | 123 校 |
| | 5,493 人 | － | － | | 4,646 人 | 5,857 人 | 5,732 人 | 5,493 人 |
| 就業体験 | 33 校 | － | － | | － | 33 校 | 27 校 | 33 校 |
| | 131 人 | － | － | | － | 117 人 | 100 人 | 131 人 |
| 教員鑑賞会参加者数 | 456 人 | － | － | | 408 人 | 868 人 | 617 人 | 456 人 |
| インターンシップ受入 | 15 大学 | － | － | | 12 大学 | 18 大学 | 17 大学 | 15 大学 |
| | 22 人 | － | － | | 20 人 | 25 人 | 21 人 | 22 人 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

**中期計画記載事項**

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(3/4) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　鈴木みどり |
| 実績・成果 | 2)-2 学校との連携事業の推進（大学等との連携事業）<br>・東京芸術大学との連携事業<br>大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。また館蔵の仏画の制作工程模型を作成し、ギャラリートークで解説した(陳列期間：平成 23 年 1 月 2 日～2 月 6 日)。<br>大学院生 7 名、ギャラリートーク回数 40 回、参加者数 1,081 名<br>・キャンパスメンバーズ<br>博物館の歴史や事業等について博物館セミナーを実施した。<br>博物館実務全般について演習、実習により体験的講座を実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・ギャラリートーク実施者にとっては、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。<br>・制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して抱く疑問を解く手がかりを得ることができた。<br>・総じて東京芸術大学との連携事業において、模型の制作・総合文化展ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し（当館の所蔵作品における新知見を見出す等)、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者が多角的な視点で鑑賞・理解を一層深めることにつながった。 | | | |

博物館実務全般について
体験的講座を実施

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京芸術大学登録者数 | 7 人 | － | － | 経年変化 | 9 人 | 7 人 | 8 人 | 7 人 |
| キャンパスメンバーズ加入校数 | 35 校 | － | － | | 22 校 | 29 校 | 35 校 | 35 校 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(4/4) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育講座室長　丸山士郎 |
| 実績・成果 | 3）講演会・列品解説・講座等の実施<br>講演会　実施39回（月例講演会　実施11回<br>記念講演会　実施12回<br>テーマ講演会　実施 1回<br>その他講演会　実施15回）<br>列品解説　実施83回(ギャラリートークを含む)<br>連続講座　実施1回(3日)<br>公開講座　実施3回<br>・震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時休館に伴い、講演会2回(月例講演会1回、その他講演会1回)、列品解説2回、その他展示に関連する事業3回（桜コンサート2回、鑑賞ガイド1回）を中止した。 | | | |
| 補足事項 | ・その他展示に関連する事業として、桜コンサート、鑑賞ガイド　国宝「花下遊楽図屏風」、花見で一服、中国展記念公演「チェンミンスペシャルコンサート」、芸大ギャラリートーク「月光菩薩について」、恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業「上野の山でツルめぐり」、教育イベント「夕すずみ能」等を実施した。<br><br>・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみが促進した。特に列品解説、月例講演会はわかりやすい解説を目指した結果、参加者の年齢層の幅も広がった。また国立科学博物館と上野動物園との連携企画も順調に成果を上げている。<br><br>・その他講演会１回の中止については、外国人講師が急遽帰国したため、臨時休館に関わらず中止であった。 | <br>月例講演会「美術の中のうさぎ」 | | |

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の実施回数 | 126 回 | － | － | | 142 | 132 | 153 | 126 |
| 参加者数 | 13,319 人 | 10,915 人 | A | | 11,361 | 12,332 | 12,546 | 13,319 |
| うち | | | | | | | | |
| 講演会実施回数 | 39 回 | － | － | | 24 | 29 | 24 | 39 |
| 参加者数 | 9,290 人 | － | － | | 4,770 | 7,134 | 5,600 | 9,290 |
| 列品解説等実施回数 | 83 回 | － | － | | 101 | 101 | 126 | 83 |
| 参加者数 | 3,659 人 | － | － | | 3,934 | 4,774 | 6,550 | 3,659 |
| 連続講座実施回数 | 1 回 | － | － | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 参加者数 | 278 人 | － | － | | 288 | 356 | 320 | 278 |
| 公開講座実施回数 | 3 回 | － | － | | 16 | 1 | 2 | 3 |
| 参加者数 | 92 人 | － | － | | 2,369 | 68 | 76 | 92 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （2）　日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進　①学習機会の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康<br>連携協力室長　山下善也 |

**実績・成果**

・土曜講座を展覧会にあわせて開催した。(15 回)
・夏期講座「文学と美術」を実施した。(7/27～29)
・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を発行した。
・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当した。
・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携した。(29 校)
・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。
・「留学生の日」(10/23)を実施した。
・「少年少女博物館くらぶ」(7/24) を実施した。
・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。
・「文化財ソムリエ」（７名）を対象としたスクーリングを実施した。
・「社会科教員のための向上講座」を実施した。
・京都市内４美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を実施した。

**補足事項**

・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたが、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれた。しかし、学習機会の提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施にこぎつけた。なお目標値を割り込んでいるのは、開催回数が大幅に減っていることによるもので、１回あたりの参加者はむしろ増加傾向にある。
・土曜講座は 23 年 3 月末現在で 1708 回を数える当館の伝統的な普及活動で、高い評価を得ている。
・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数いて、見学会も合わせ好評を博している。
・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座では、研究員５名が客員教授（2 名）、准教授（3 名）を担当し、博士前期・後期課程の学生に対し、実作品の展示・調査活動を通して専門的教育を行っている。

夏期講座風景

・外国人留学生の「留学生の日」入館者は、同伴者を含め 184 名。「高僧と袈裟」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供するとともに、お茶会を催し、留学生を通じて、日本の伝統文化の国外への発信を行った。
・「少年少女博物館くらぶ」については、以前は平常展において展示解説を行っていたが、平常展休止に伴い、本年は、豊臣秀吉をテーマに博物館庭園及び近隣の社寺や遺跡をめぐり小中学生向けの解説を行った。
・京都市内の小中学校への訪問授業等については、文化財の高精細複製を教材として、文化財ソムリエと当館研究員が小中学校を訪問したほか、建仁寺にて鑑賞プログラムを行い、子どもたちが美術や文化財に親しむきっかけづくりをした。
・「文化財ソムリエ」については、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生７名を対象に訪問授業等に向けたスクーリングを実施した。
・「社会科教員のための向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等　参加者数 | 2,313 人 | 5,181 | C | | 4,489 | 3,413 | 3,002 | 2,313 |
| 実施回数 | 17 回 | － | － | | 46 | 37 | 21 | 17 |
| うち土曜講座　参加者数 | 2,076 人 | － | － | | 4,329 | 3,254 | 2,791 | 2,076 |
| 実施回数 | 15 回 | － | － | | 45 | 36 | 19 | 15 |
| うち夏期講座　参加者数 | 205 人 | － | － | | 160 | 159 | 179 | 205 |
| 実施回数 | 1 回(3 日) | － | － | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| うち社会科教員のための向上講座　参加者数 | 32 人 | － | － | | － | － | 32 | 32 |
| 実施回数 | 1 回 | － | － | | － | － | 1 | 1 |
| キャンパスメンバーズ加入校 | 29 校 | － | － | | 21 | 29 | 30 | 29 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　（1／2） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部教育室 | 事業責任者 | 教育室長　吉澤　悟 |

**実績・成果**

**講演会等　参加者数　3,349 人、実施回数 28 回**

・特別展等講座　15 回　参加人数 2，172 人
　公開講座の実施。12 回、参加人数 1,522 人
　特別講演会の実施。　5 月 15 日　参加者数 316 人　会場：奈良県新公会堂能楽ホール
　シンポジウムの実施。2 回、参加者数 334 人
・サンデートークの実施。12 回、参加人数 621 人
・夏季講座の実施。8 月 24 日～26 日（3 日間）　参加者数 556 人（各日）　会場：奈良女子大学講堂

**小中学校との連携**

・奈良市内小学校 5 年生を対象に世界遺産学習授業を実施した。30 校受入、2,221 人
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信し、小・中・高校に「奈良博たより」を送付した。
　メールマガジン配信数 220 件、たより送付数 71
・奈良市の小・中学校の教員研修を実施した。8 月 27 日　参加者数 200 人
・奈良市内の中学生の職場体験学習を受け入れた。1 校 6 人

**解説ボランティアによる作品解説**

・展示会場での解説　284 日間、
　学校・一般団体の案内 30 件、1,162 人（申し込み件数。当日受入は含まず）、
　正倉院展の講堂解説 20 日間 計 110 回　など

**補足事項**

・公開講座は、特別展の会期中に 2～4 回、特別陳列では 1 回実施。
・サンデートークは、当館研究員等により、最近の調査・研究の成果、博物館ならではの話などを講演形式で実施。
・夏季講座は奈良女子大学との連携事業として実施。
　今年は「仏像修理 100 年と仏像研究の現在」と題し、過去最高の参加希望が寄せられた。
・特別講演会は、「大遣唐使展」に関連して、遣唐使に詳しい東野治之氏（奈良大学）を招いて館外で実施した。
・シンポジウムは、「大遣唐使展」と「正倉院展」に関連した学術シンポジウムを行った。2 回とも海外の講演者が参加。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等　参加者数 | 3,349 人 | 3,542 | B | | 2,949 | 3,655 | 3,421 | 3,349 |
| 実施回数 | 28 回 | － | － | | 28 | 32 | 33 | 28 |
| うち特別展等講座参加者数 | 2,172 人 | － | － | | 1,943 | 2,706 | 2,043 | 2,172 |
| 実施数 | 15 回 | － | － | | 15 | 19 | 16 | 15 |
| 満足度 | 93.2% | － | － | | 87% | 90% | 95.6% | 93.2% |
| うち夏季講座　参加者数 | 556 人 | － | － | | 358 | 362 | 391 | 556 |
| 実施回数 | 1 | － | － | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 満足度 | 94.8% | － | － | | 84% | 90% | 92.0% | 94.8% |
| うちサンデートーク参加者数 | 621 人 | － | － | | 648 | 587 | 584 | 621 |
| 実施数 | 12 回 | － | － | | 12 | 12 | 11 | 12 |
| 満足度 | 87.6% | － | － | | － | － | 90.6% | 87.6% |
| うち大学との連携講座 | | | | | | | | |
| 参加者数 | － | － | － | | － | － | 353 | － |
| 実施回数 | － | － | － | | － | － | 4 | － |
| 満足度 | － | － | － | | － | － | 86.0 | － |
| うち世界遺産学習特別勉強会参加者数 | － | － | － | | － | － | 50 | － |
| 小中学校へのメールマガジンの配信 | 220 校 | － | － | | 220 | 220 | 220 | 220 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-2

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供（２／２） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 学芸部長　西山　厚 |
| 実績・成果 | ・キャンパスメンバーズによる大学との連携強化を図るべく、未加入校に対し積極的に広報を行い、加入校の増加を図った。<br>【神戸大学大学院人文学研究科】<br>・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員２名を客員教授と客員准教授とし、文化資源論を担当した。<br>・受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生であり、８名の学生が受講した。<br>・２名の博士論文の査読を行い、副査として口頭試問を行った。<br>【奈良女子大学大学院人間文化研究科】<br>・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員１名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論を講義している。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期４人、後期３人である。<br>・世界遺産教育に関する全国大会を、奈良市教育委員会および奈良教育大学と共同で実施。<br>於．奈良教育大学　11 月 28 日　　参加者数 800 人<br>【文化財保存修理所の公開】<br>・平成 22 年 9 月 8 日(水)、15 日(水)　特別展「仏像修理 100 年」の関連イベントとして、文化財保存修理所の特別公開を臨時に開催した。300 名の募集に対し、応募総数 448 名、参加者 237 名となった。他府県からの参加者も多く、満足度の高い感想が得られた。<br>・平成 23 年 2 月 9 日(水)　昨年度に引き続き、恒例の文化財保存修理所の特別公開（第 3 回目）を開催し、120 名の募集に対し、応募総数 234 名、参加者 106 名となった。<br>・平成 23 年 3 月 26 日（土）、美術史学会西支部大会を受け入れた。100 名の学会員が講堂で三月堂修理の行程について聴講し、さらに文化財保存修理所を見学した。 | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | キャンパスメンバーズ加入校 | 28 校 | － | － | 経年変化 | 20 | 25 | 27 | 28 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　　①　学習機会の提供(1/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 主任研究員　　池内　一誠 |
| 実績・成果 | ① 博物館における体験型事業の充実を図った。<br>②九州大学との共同研究の成果に基づき、平常展を利用して来館者のニーズに合った情報提供を行うためのプログラムを研究・開発した。<br>③学校教育との連携事業を実施した。 | | | |
| 補足事項 | ①体験型展示室「あじっぱ」における展示・体験活動の充実<br>・「あじっぱ」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ12回、「あじ庵」において延べ5回、「あじぎゃら」において延べ5回の展示替えを行った。「屋台」において新たに紹介する国として「モンゴル」「ウズベキスタン」の2カ国を追加した。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「モンゴルの馬具に乗ってみよう」「モンゴルのもようをデザインしよう」「モンゴル・ウズベキスタンの３D写真」「きゅうぱっく　モンゴルの馬頭琴」「Boo Booペット」「いろんなもようを織ってみよう」「テープ独楽をまわそう」を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者」を定例化し、毎月第2・第4土曜日に実施したほか、職場体験・学校団体等の希望者に対して随時実施した。<br>・「Boo Booペット」「いろんなもようを織ってみよう」「テープ独楽をまわそう」は教育普及ボランティアの企画によるもので、ボランティア活動の活性化の成果でもある。<br>・夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」の実施<br>夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」を8月7日～8日に実施した。内容の企画から準備、当日の運営にいたるまで教育普及ボランティアが主体となって進め、3カ国3コンテンツを運用した。2日間で延べ約300名(子どものみの数) の参加があった。<br>②昨年度に引き続いて、九州大学金大雄研究室との共同研究として来館者動向および展示解説システムの改善に向けての実証実験を実施した。その結果、実際に来館者が展示室内でどのように行動しているかの具体的なデータを取得した。<br>③学校教育との連携事業<br>・初等・中等教育との連携<br>学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用を継続しつつ、昨年度行った改善点の検討に基づき、新規のセットとして「きゅうぱっくLite」7種類を開発、運用を開始した。「きゅうぱっくLite」は「土器のいろいろ」「青銅器のいろいろ」「誕生！！中国文明」「高麗の文化」「イスラームの祈り」「さまざまな穀物」「さまざまな香辛料」の7種類。あじっぱ体験用資料を中心に、３D プリンタでの成果等も活用した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。<br>・高等教育との連携<br>博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を5月～2月の間に8回実施した。<br>・教員を対象としたプログラムの実践<br>経験2年目教師、および経験11年目教師に対して社会貢献等の体験の場を提供した。経験2年目教師2名、11年目教師4名を受け入れた。<br> <br>「いこうよ！あじっぱ夏祭り」<br> <br>「きゅうぱっくLite 青銅器のいろいろ」 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | あじ庵の展示替え | 5回 | － | － | | 2 | 2 | 2 | 5 |
| | なりきり学芸員体験 | 40回 | － | － | | 45 | 63 | 65 | 40 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　　①　学習機会の提供　(2/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 企画課長　小泉惠英<br>文化交流展室長　河野一隆 |
| 実績・成果 | ①シンポジウム・特別展記念講演会を開催した。<br>②文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施した。<br>③ミュージアムトークを随時実施した。<br>④文化施設等へ講師を派遣した。<br>⑤特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行った。 | | | |
| 補足事項 | ①中国より研究者を招聘した国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と文化」(12 月 18 日)をミュージアムホールにて開催した。各特別展では記念講演会・シンポジウム等を実施した。内容は外部講師や著名ゲストを迎えての、より親しみやすい内容のものと、館外・館内研究者による学術的なものの両面を打ち出し、各層の期待に応えるものとなった。またいずれの特別展でも、地元自治体への出張講演を複数回実施した。<br>③毎週火曜日（火曜休館の週は休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月 2 回～4 回で 15～30 分程度。1 回の平均参加人数は 30 名程度である。開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーターの指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。ミュージアムトークでは、開館以来、展示品を来館者が分かりやすく、気軽に楽しめるスタイルを踏襲しており、web 上で告知することもあって、好評を博している。<br>④各特別展では、近隣の高校や博物館等に研究員が出向き展覧会の見どころ等を講義した。<br>⑤特別展では，観覧者の理解を助けるためのワークショップ・教育普及プログラムを実施した。また、学校教育プログラムと連携事業を実施した。 | | | |

ミュージアムトーク開催風景

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 64 回 | － | － | | 61 | 56 | 73 | 64 |
| 参加者数 | 3,996 人 | 5,255 人 | B | | 4,168 | 5,507 | 6,806 | 3,996 |
| 内特別展記念講演会 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 9 回 | － | － | | 7 | 11 | 6 | 9 |
| 参加者数 | 1,410 人 | － | － | | 1,892 | 2,670 | 1,622 | 1,410 |
| 内ﾐｭｰｼﾞｱﾑﾄｰｸ | | | | | | | | |
| 実施回数 | 44 回 | － | － | | 42 | 37 | 42 | 44 |
| 参加者数 | 1,320 人 | － | － | | 1,320 | 1,096 | 1,285 | 1,320 |
| 内講演及びｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ | | | | | | | | |
| 実施回数 | 11 回 | － | － | | 1 | 6 | 24 | 11 |
| 参加者数 | 1,266 人 | － | － | | 316 | 1,555 | 3,849 | 1,266 |
| 内ﾐｭｰｼﾞｱﾑ講座 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 0 回 | － | － | | 11 | 2 | 1 | 0 |
| 参加者数 | 0 人 | － | － | | 640 | 186 | 50 | 0 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　　①　学習機会の提供(3/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>交流課 | 事業責任者 | 総務課長　岩﨑英明<br>交流課長　宮本裕一 |
| 実績・成果 | ①キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施した。<br>②近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画した。<br>③放送大学の面接授業を実施した。<br>④博物館実習生の受け入れを実施した。 | | | |
| 補足事項 | ①キャンパスメンバーズ制度により大学との連携を継続させるため、今年度も募集・実施し、各教育機関（大学・専門学校・高校）が新規および継続で入会した。<br>キャンパスメンバーズ加入校　27 校<br>（大学　15 校・短期大学　4 校・専門学校　1 校・高等学校　7 校）<br>・会員校へ特別展の出張講義を実施した。（1 校）<br>・会員校の学園祭へ協賛した。（4 校）<br>・会員校へ博物館体験型講義を実施した。（1 校）<br><br>・本年度から新規に 1 校が加入した。特典の利用として、文化交流展（平常展）へ 4,710 名観覧、特別展へ 3,956 名観覧、パスポートを 1,759 名の学生会員が購入した。<br><br>・会員校である筑紫台高校はキャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。特典である年間パスポートを学生全員が購入し、年 4 回の特別展を全て観覧、のべ約 3,290 人の高校生が来館した。そのうち、特別展「誕生！中国文明」については担当研究員が 1 年生向けに事前講義を行い、観覧のための事前学習の機会を提供した。<br><br>・その他、文化交流展（平常展）においては 8 割を超す割合で利用している学校もあり、若年層への文化財観覧の機会の向上に資することができた。また、会員校へは博物館実習の機会も優先的に提供しており、継続的に連携している。<br><br>④博物館実習は 13 大学 17 名を受け入れた。<br><br>なお、インターンシップによる研修生の受け入れは実績なし。 | | | |

出張講義の様子

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | キャンパスメンバーズ加入校 | 27 校 | － | － | | 21 | 22 | 29 | 27 |
| | 放送大学面接授業の講師数 | 7 人 | 8 人 | B | | － | 5 | 8 | 7 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　鈴木みどり |

**実績・成果**

・各種教育普及事業の補助的活動を継続して展開した。
・点字や手話による博物館案内を実施した。詳しくは処理番号 2311-1 を参照。
・ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。
・児童・生徒の就業体験を受け入れた：学校数 33 校、生徒数 131 人
・館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた
　通年(開館日は基本的に毎日実施)
　館内案内実施場所：4 箇所（本館 1・2 階エントランス，本館 17 室，本館 20 室）
・東京芸術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施した。詳しくは処理番号 2211-3 を参照。
・震災の影響による 23 年 3 月 12 日～3 月 28 日の臨時休館に伴い、生涯学習ボランティアによるガイドツアー71 回、東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 2 回を中止した。

**補足事項**

・各種教育普及事業等の補助（ハンズオン体験コーナー利用者数：98,891 人）、ボランティア自身の自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーの実施により、来館者の生涯学習機会の増大に寄与し、来館者へのサービスを向上することができた。
　実施回数 522 回、参加人数 13,373 人
・各種ボランティア活動を通じてボランティアを育成し、館職員とボランティアとが相互協力することにより、教育普及活動が充実してきている。
・国際ボランティアデーにあわせ、東博ボランティアデーを 1 日実施し、生涯学習ボランティアの活動紹介を行った。
・東洋館の耐震補強工事に伴う、表慶館での東洋美術・考古の代替陳列が行われ、この陳列の紹介を目的とした生涯学習ボランティアによる「表慶館アジアギャラリーガイド」を事前の研修も含めて企画・立案・実施した。
・留学生の日、「博物館でお花見を」企画との連携で、各種プログラムを実施した。

生涯学習ボランティアが
ハンズオン体験コーナーの補助を行う

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ボランティア数 | 159 人 | － | － | | 162 | 171 | 163 | 159 |
| うち生涯学習ボランティア登録者数 | 152 人 | － | － | 経年変化 | 153 | 164 | 155 | 152 |
| うち東京芸術大学学生ボランティア数 | 7 人 | － | － | | 9 | 7 | 8 | 7 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （2）歴史・伝統文化の理解促進　②－1ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 連携協力室長　山下善也 |
| 実績・成果 | ・京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行ったのち、特別展示館出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。<br>・「調査・研究支援ボランティア」の募集と活動の充実を進めた。当館職員が行う調査・研究業務、展示替え作業の補助を行った。<br>・「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアに当館研究員がスクーリングを行ったのち、京都市内の小中学校への訪問授業等を行った。 | | | |
| 補足事項 | ・京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10 月 19 日から 29 日、11 月 9 日から 12 日までの毎火・水・金曜日の 10 時 00 分から 16 時 00 分まで、特別展示館出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。終了後に結果の集計・分析を行った。<br>・「調査・研究支援ボランティア」の募集と活動の充実を進めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。 | | | |

アンケートボランティア

文化財ソムリエによる訪問授業

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 40 人 | － | － | | 23 人 | 30 人 | 35 人 | 40 人 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部教育室 | 事業責任者 | 教育室長　吉澤　悟 |
| 実績・成果 | ・特別展、特別陳列の開催ごとに１～２回、当館職員による展示内容の研修を実施した。<br>・全員にすべての展覧会図録を配布。解説と自己鍛錬のための学習資料とした。<br>・正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った上、１～２週にわたる自主トレーニングを経て、実地に臨むよう指導した。<br>・展示内容に関する質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の対応を行った。学芸部職員による担任制をとり、問題解説にあたっている。<br>・世界遺産学習や一般解説の依頼に対して、教育室を中心に日時の調整から対応方法についてボランティアと打合せを重ねた。特に今年度は、工事等による閉館期間と世界遺産学習の対応が重なったため、新たに仏像コスチューム授業を実践したが、その調整に職員とボランティアが協力体制を組んだ。<br>・韓国中央博物館の視察や、韓国の教員研修の一部などを受け入れ、ハングル対応のボランティアが解説・通訳を行った。 | | | |
| 補足事項 | ・解説ボランティアには自己学習と班内研鑽を奨励し、来館者に対しては人柄を生かした柔軟な対応をするよう求めている。<br>・解説ボランティアの活動は、火曜から日曜までの開館日であるが、年５～６回の月曜開館および年末年始の開館においても活動可能な人に来館者対応を依頼している。<br>・年度内に一度、全ボランティアと館長・職員による懇談会を行い、共に博物館を支える意識を共有している。<br>・12 月の当館敷地内の発掘調査に対して、現場説明会にボランティアの中から有志を募り、解説に当たってもらった。<br>・現時点でボランティアは随時募集をせず、定年制も行っていない。これは数年来の活動経験や知恵、そして個性を生かした人間味のある解説を目指すためである。その一方で高齢化が進んでおり、今後ボランティアの在り方について検討していく。<br>・語学対応可能なボランティアの増化を引き続き呼びかけている。 | | | |

世界遺産学習「仏像コスチューム授業」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 85 人 | － | － | 経年変化 | 96 | 102 | 98 | 85 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②－１　ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 主任研究員　上野知彦 |
| 実績・成果 | ①ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図った。<br>②ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施した。<br>③ボランティア同士のグループ別学習の充実を図った。 | | | |
| 補足事項 | ・毎日 30 名前後、１ヶ月で延べ 1000 名を超えるボランティアが館内案内、４階文化交流展示室の解説案内、体験型展示室「あじっぱ」での体験活動のサポート、館内の IPM 活動に取り組んでいる。<br>・開館５周年記念関連イベントの１つとして、参加体験型イベントを中心としたボランティア企画による「九博ボランティアフェスタ」を開催した。<br>・語学系を中心とした自主的なグループ研修が活発になり、その活動を通してボランティア企画による広報紙等の作成が行われるようになった。<br>〔対応来館者数（団体数)〕　※事前予約団体分のみ<br>展示解説案内 : 6,518 人（197）　館内案内 : 4,896 人（121）　バックヤード : 3,027 人（124）<br>・１階エントランスホール、及び４階文化交流展示室の入口にボランティアガイド受付カウンターを設置し、来館者サービスの向上と共にボランティア活動の充実を図っている。<br>・ボランティアによるイベントの開催においては、ボランティアの意欲や主体性を尊重。<br>・「九博ボランティアフェスタ」のほか、九州国立博物館を愛する会と共催で市民・ボランティアによる手作りイベント「九博子どもフェスタ」を毎年２月に開催。<br>・語学研修、展示物に関する研修、IPM（総合的有害生物管理）に関する研修を実施した。<br>・グループ活動はボランティアの資質の向上、活動の活性化を目的とし、それを通して参加体験型のイベントの企画やコンテンツの開発を行っている。<br>・博物館 IPM 活動の広報・周知を目的にボランティア企画による広報紙「みどりの広報」を作成し、関連機関・施設に配布している。<br>・海外展「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」において、九博ボランティア、九州国立博物館を愛する会とタイ在住ボランティアの協力を得て、日本の伝統的な遊戯を紹介するワークショップを実施した。（九博ボランティア 30 人参加） | | | |

九博ボランティアフェスタの一コマ

手話によるバックヤードの案内

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 288 人 | － | － | | 293 | 388 | 345 | 288 |
| | 全体研修会 | 3 回 | － | － | | 17 | 10 | 5 | 3 |
| | 部会別研修 | 193 回 | － | － | | 105 | 95 | 149 | 193 |
| | グループ研修 | 44 回 | － | － | | 54 | 3 | 40 | 44 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央 |

実績・成果

・友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。

1)友の会・パスポート・平常展割引パス　会員数

| 種　別 | | 22年度 | (参考) 21年度 |
|---|---|---|---|
| 友の会（1万円） | | 1,412 人 | 2,085 人 |
| パスポート | 一般 4,000 円 | 12,870 人 | 20,392 人 |
| | 学生 2,500 円 | 863 人 | 1,206 人 |
| 平常展割引パス (2,500 円) | | 27 人 | 24 人 |

・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数:147 名(21 年度は 331 名)

2)賛助会　会員数

| | 22年度 | (参考)21年度 |
|---|---|---|
| 特別会員 | 16団体 | 13団体 |
| 維持会員 | 28団体・個人191人 | 24団体・個人178人 |

・会員対象の特別鑑賞会等の実施　特別展内覧会　4回　事業報告会　1回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障がい者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展など６つのプログラムを行った。（参加者合計 1,239 名）

・平成 23 年 1 月より募金箱を館内 3 箇所に設置した（本館玄関、本館 1 階 17 室、平成館玄関)。

補足事項

1)・賛助会団体維持会員・特別会員については新規に企業へのPRなどをした結果、増加した。
・個人の維持会員数についても、個別に制度の紹介をするなどした結果、参加者が増加した。

2)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かせる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。
・所沢の柳瀬荘を活用した企画を地元の日本大学芸術学部と共催し、地域の住民を取り込んだ活動を実施し、一定の成果があったので、今後も継続していきたい。
・企業との連携を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような事業を提案するなどの工夫を図っていく必要があると思われる。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 友の会会員数 | 1,412 人 | － | － | 経年変化 | 1,341 | 1,913 | 2,085 | 1,412 |
| パスポート会員数 | 13,733 人 | － | － | | 16,035 | 20,405 | 21,598 | 13,733 |
| 賛助会員 | | | | | | | | |
| 特別会員数 | 16 団体 | － | － | | 16 | 13 | 16 | 16 |
| 維持会員数(団体) | 28 団体 | － | － | | 24 | 26 | 24 | 28 |
| (個人) | 191 人 | － | － | | 123 | 157 | 178 | 191 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　植田義雄<br>連携協力室長　山下善也 |
| 実績・成果 | ・「友の会」事業を継続して実施した。<br>会員数　2,468 人<br>・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。<br>・「京都市内 4 館連携協力協議会」を実施した。<br>・企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。<br>・今年度より、博物館の諸活動への企業からの各種支援を募るため「ミュージアム・パートナー」制度を設置し、一企業がこの制度に協賛した。 | | | |
| 補足事項 | ・支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（4 回）・見学会（5 回）・会報（4 回）の解説・執筆に協力した。<br>・「京都市内４館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の 4 館が連携し、広報のための合同パンフレット 77,000 部の製作、友の会の相互協力を行った。<br>・初めての試みとして、庭園を利用した「雨月物語」映画鑑賞会（計２回）を開催した。また、特別展覧会チケット半券による入場としたため、集客につながった。<br>・自転車活用推進研究会及びアーティストであるリキュー氏の協力により「自転車発電エコライブ」を青空の下庭園を利用して開催した。なお、このイベントは今回が３回目となる。<br>・人間国宝　桂米朝氏が所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は 3 回実施した。<br>・全館休館期間中に、音楽イベント「音燈華」を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出の元、ジュスカ・グランペールが音楽を奏で、大盛況であった。<br>・「友の会」会員数においては、平常展示館建替工事中であるにもかかわらず、加入者数は前年度並となった。これは、「長谷川等伯」展開催中の「友の会」入会者数が非常に多かったこと、及び京都市内４館連携協力の成果によるものと思われる。 | | | |

自転車発電エコライブ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 友の会会員数 | 2,468 人 | － | － | 経年変化 | 3,224 | 2,932 | 2,612 | 2,468 |
| | ミュージアム・パートナー会員数 | 1 件 | － | － | | － | － | － | 1 |
| | 清風会会員数 | 391 件 | － | － | | 390 | 388 | 389 | 391 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 総括専門職員　吉田貴至 |
| 実績・成果 | ・友の会<br>会員数　3,180 人（一般 3,009 人、学生 125 人、家族 46 人）<br>・賛助会　27 団体　37 人<br>特別支援会員：4 団体、特別会員：4 団体、一般会員（個人）：37 人、（団体）：19 団体<br>会員数の増加に伴い芳名板をリニューアルした。<br>・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。<br>・アメリカン・エキスプレス社のカード会員向けポイント・プログラム「メンバーシップ・リワード」において、賛助会の一般会員（個人）に 1 年間入会できる交換アイテムを提供した。<br>・特別陳列「お水取り」で企業から協賛金を獲得した。<br>・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2010」、「なら燈花会」、「全国光とあかり祭」、「バサラ祭」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。<br>・３月末になら仏像館入口、新館入口に募金箱を設置した。 | | | |
| 補足事項 | ・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなどのサービスを行い、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行っている。<br>・奈良市観光協会に入会し、新たな顧客層の開拓を図る。 | | | |

賛助会員芳名板

メンバーシップ・リワード
（アメリカン・エキスプレス社）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 友の会会員数 | 3,180 人 | ― | ― | 経年変化 | 2,439 | 2,815 | 2,799 | 3,180 |
| | 賛助会会員数（総数） | 64 件 | ― | ― | | 45 | 49 | 56 | 64 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②―2　博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>交流課 | 事業責任者 | 総務課長　岩﨑英明<br>主任主事　藤崎秀典 |
| 実績・成果 | ①友の会及びパスポート会員制度を継続して実施した。<br>②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。<br>③寄附金を募る募金箱を２３年３月末に１階エントランスに設置した。 | | | |
| 補足事項 | ①友の会会員数　１４４名<br>パスポート会員数　３，３１８名<br><br>②支援団体や近隣地域と連携したイベント<br>・ 九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博こどもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力を得て、地域のこどもたちを対象にしたイベントを実施した。<br>・ 福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。<br>・ 開館以来、５年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山をエントランスホールで展示。<br>この事業は、西日本新聞社との共同事業として実施した。<br>・ 内容を勘案したうえで、自治体や文化団体の主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベント事業の実施により来館者へのサービスが促進された。<br>・ 支援団体である九州国立博物館を愛する会、参道会への内覧会を行った。<br>・ 福岡空港に九州国立博物館宣伝用看板（電照広告）を設置した。<br>・ 海外展「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」において、九州国立博物館を愛する会、九博ボランティアとタイ在住ボランティアの協力を得て、日本の伝統的な遊戯を紹介するワークショップを実施した。 | | | |

九博こどもフェスタ風景

博多山笠展示風景

九州国立博物館宣伝用看板
（福岡空港）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 友の会会員数 | 144 人 | ― | ― | | 167 | 154 | 206 | 144 |
| | パスポート会員数 | 3,318 人 | ― | ― | | 3,252 | 3,120 | 3,914 | 3,318 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(1/6) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　鈴木みどり |
| 実績・成果 | ・点字解説等の増刷版パンフレットの作成を継続し、配布した。<br>・バリアフリー対応ボランティアを募り、研修等を実施。<br>・当館ウェブサイトにおけるバリアフリーマップ制作のための調査を実施。<br>・手話通訳つきガイドツアーを月１回（「たてもの散歩ガイド」）継続して実施。<br>・聴覚障がい者対応のため、コミュニケーションボードの使用を開始。<br>・車椅子研修を実施。 | | | |
| 補足事項 | ・平成 22 年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備事業「博物館をみんなのものにーハンズオン・ワークショップを中心にー」を実施し、当館のバリアフリー化の促進に寄与した。詳しくは処理番号 2211-2 を参照。 | | | |

ハンズオン教材の点字ラベルを作成

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 配布部数 | 10 部 | ― | ― | 経年 | 9 | 9 | 5 | 10 |
| | 増刷部数 | 15 部 | ― | ― | 変化 | 10 | 10 | 15 | 15 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(2/6) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央 |
| 実績・成果 | ・多言語による案内及び誘導サイン等を環境整備委員会に諮り順次整備している。<br>・日ざしの強い日に、お客様の熱中症対策として、敷地内移動用の日傘の貸出を実施した。<br>・新型インフルエンザの流行後も引き続き、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。<br>・各特別展の際に障がい者内覧会を開催した。（三菱商事株式会社と共催）<br>・上野消防署の協力により、防災訓練を実施した。<br>・貸出用車いすのうち、展示が見やすい座面昇降式車いす（４台）がある旨の看板を掲示した。<br>・混雑時に、コインロッカーを一時的に増設した。<br>・今までＡＥＤの設置がなかった法隆寺宝物館に設えた。<br>・建物・黒門の野外解説版で劣化しているものを新調した。<br>・老朽化していた本館救護室や茶室の備品を更新した。<br>（23 年 1 月の正門券売所リニューアル関連）<br>・これまで特別展看板側に総合文化展券売所があり、総合文化展掲示板側に特別展券売所があったため、お客様の誘導に不具合があった。このため、看板等に合うよう券売所を入れ替え、軒下にそれぞれのチケット売り場表示看板、料金表を夜間照明と併せ新設した。<br>・日・英・中・韓の４か国語表記の券売機を導入した。<br>・新たに９種類のクレジットカードを利用できるよう機器を設置した。<br>・総合文化展チケットの画像を様々な作品や建物画像を印刷して楽しめるようにした。<br>（東日本大震災関連）<br>・激しい揺れが収まった後、お客様を前庭に誘導し怪我がないことを確認した。展示作品や収蔵庫は研究員が確認し、大きな損害がでていないことを確認した。<br>・余震が続くため、夕方に臨時閉館とし、帰宅困難なお客様を平成館ラウンジに案内し、ソファや救護室ベッドを運び入れ、毛布を渡し休んでもらった。食事は、夕食は近所で買い物してもらい、朝食は当館で購入しておいたパンを配布した。ラウンジのミュージアムシアター告知用液晶モニターにテレビのニュース放送を流した。<br>・外国人のお客様には、英語のわかる研究員が応対し、道路地図のコピーに目印を記入し、配布した。 | | |
| 補足事項 | ・新たに日傘を 200 本購入した。<br>・障がい者内覧会は、三菱商事株式会社が募集を行い、当館共催のうえ、閉館後に研究員が解説を行い、その後観覧していただいた。<br>「細川家の至宝」　5 月 29 日　164 人<br>「誕生！中国文明」　8 月 21 日　96 人<br>「東大寺大仏－天平の至宝－」　10 月 30 日　57 人<br>「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」　23 年 1 月 29 日　154 人<br>・大地震当日は、近隣の台東区役所や国立科学博物館と連絡をとり、他の避難所や駅の情報をやり取りし、毛布を借りるなど連携を取った。 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-3

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （３）快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供（3/6） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | デザイン室長　木下史青 |
| 実績・成果 | より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。<br>a. 本館 11 室『彫刻』等に LED(発光ﾀﾞｲｵｰﾄﾞ)光源のカッタースポットライト照明を導入。<br>b. 本館 12 室『漆工』展示室をリニューアルし、低反射ガラスを使用した展示ケースを導入、また付属の下部照明に超高演色ＬＥＤを採用し、照明効果を飛躍的に向上させた。 | | | |

補足事項

a.　本館１１室　『彫刻』　（ほか本館18室、特別5室）の展示照明に、従来のハロゲンランプ光源の器具に加え、寿命の長いLED(発光ﾀﾞｲｵｰﾄﾞ)光源の器具を導入した。
- 以前から使用しているカッタースポットライトの光源は白熱系ランプであり、調光により色温度が変化したが、LEDでは色温度の変化が無い。
- LED照明は長寿命であることに加え、単一指向性が強いのが特徴で、彫刻等のモデリング効果に優れている。

a．本館 11 室『彫刻』（ほか 18 室、特別 5 室）

b.　総合文化展・本館12室『漆工』の展示室をリニューアルした。
- 展示ケースは低反射ガラスを使用した免震装置付ケースを新規に製作し、ケース付属の下部照明には超高演色ＬＥＤ光源の器具が採用された。
- このケース及び照明器具の採用により、漆工作品の様々な技法的魅力を引き出す展示が可能となった。
  特に低反射ガラスの採用は、展示照明の設計上の自由度を飛躍的に拡大させた。

ｂ．本館 12 室『漆工』

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ａ．本館 11 室『彫刻』等 | ３件 | － | － | 経年変化 | － | － | － | ３件 |
| ｂ．本館 12 室『漆工』 | １件 | － | － | | － | － | － | １件 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(4/6) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　伊藤信二 |
| 実績・成果 | ①「日本美術の流れ」鑑賞のための4ヶ国語パンフレットの制作・配布<br>日本語：展示テーマと主な展示作品の解説を収録。展示替えに応じて、更新・配布した。<br>英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識と、カラー図版で構成したパンフレットを改訂・配布した。<br>②子供向けワークシート<br>見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促すワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」の3種を改訂、本館で配布。 | | | |
| 補足事項 | 日本美術の流れパンフレット　日本語版<br>計34回更新・制作<br>（第193号－226号　2011年3月末現在）<br><br>日本美術の流れパンフレットは、日本語、英語、中国語、韓国語いずれも、本館2階「日本美術の流れ」1室で配布した。<br>子供向けワークシートは本館2階1室、1階20 室での配布のほか、ホームページからもダウンロードが可能。<br><br>展示を理解するための有効な手段として多くの来館者に利用され、日本の伝統文化の理解促進に寄与した。<br>また、日本美術の流れパンフレット英語、中国語、韓国語と子供向けワークシートは内容が作品の展示替えに左右されないので、長期間にわたって配布できるようになった。 | | | |

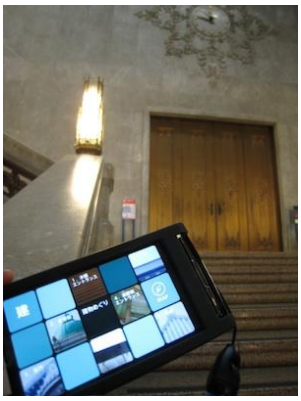
日本美術の流れ　外国語版パンフレット
（英語・中国語・ハングル）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 日本美術の流れパンフレット更新回数 | 34回 | － | － | 経年変化 | 39回 | 36回 | 29回 | 34回 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-5

| 中項目 | 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(5/6) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 課長 今井敦 |
| 実績・成果 | ・スマートフォン端末を利用した位置連動型ガイドシステム「とーはくナビ」の実証実験を行なった。総合文化展(平常展)の理解促進につながったほか、最新の技術を用いた展示ガイドの可能性の検証、将来の本格導入に向けて制作・運用上の問題点の解明に成果をあげることができた。<br>・震災の影響による 23 年 3 月 12 日～3 月 28 日の臨時休館に伴い、この期間実施を中止した。そのため当初 23 年 1 月 17 日から 3 月 31 日としていた実験期間を、4 月 17 日まで延長する予定である。 | | | |
| 補足事項 | ・来館者にスマートフォン端末を無償で貸与し、総合文化展のガイドを行なった。<br>・利用者は興味関心と観覧予定時間に応じて、「建物めぐりコース」「日本美術入門コース」「日本美術の流れコース」「リニューアルエリア体験コース」「法隆寺宝物館鑑賞コース」「日本美術じっくりコース」の 6 つのコースから選択し、無線 LAN を利用した位置連動機能をそなえたガイドにしたがって観覧する。<br>・一部インタラクティブな機能を利用したコンテンツを用意した。 |  <br>「とーはくナビ」の使用イメージ | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ガイド端末貸出件数(3月31日まで) | 2,217 | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | 2,217 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-6

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(6/6) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部　企画課 | 事業責任者 | 特別展室長　松嶋雅人 |
| 実績・成果 | 下記の特別展で音声ガイドの貸出を実施した。<br><br>・特別展「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」　33,507 件<br>・特別展「誕生！中国文明」　15,291 件<br>・特別展「東大寺大仏―天平の至宝―」　46,596 件<br>・特別展「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」　35,456 件<br>貸出数：計　130,850 件 | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸出件数 | 130,850件 | － | － | 経年変化 | 256,441 | 305,135 | 360,901 | 130,850 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　植田義雄<br>学芸部長　西上　実 |

**実績・成果**

・平常展示館の建替工事を継続中であり、来館者の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。
・外国人を含め来館者が気持ちよく観覧していただけるよう、２カ国語の観覧マナーの注意事項パネルを看視員が準備し、マナー向上のお願いの方法を改善した。
・展覧会において、入館待ち時間の情報等をウェブサイト等で迅速に発信した。また、「長谷川等伯」展においては、過去１週間の混雑状況を時系列でパソコン端末及び携帯端末向けに掲載した。
・当館職員、臨時要員、売店、レストラン従業員、(財) 京都古文化保存協会学生ボランティアを対象とした「マナー講習会」を実施した。また、あわせて「クレーム講習会」も実施し、接客の向上に努めた。
・東山消防署の協力により、地域と連携した消防訓練を実施した。また、展覧会開催中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の意識を高めた。
・普通救命講習及びＡＥＤの取扱講習会を実施した。

**補足事項**

・特別展示館内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の増加を行い、来館者が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バック（カート）が収納可能な大型コインロッカーの増設を行った。また、本館入口前にもコインロッカーを設置し、荷物を預け忘れた来館者が庭園まで戻る必要がないようにした。
・「長谷川等伯」展においては、臨時の救護所、飲料水販売所を設置し、救護所には看護師を配置した。また、待ち時間がはっきりとわかるよう、南門及び庭園内随所にも時間を明示し、京都駅前及び京阪七条駅前においても待ち時間表示を行った。
・音声ガイド利用台数
　・特別展「長谷川等伯」
　　（日本語版・一般向け）36,843 台
　・特別展観「上田秋成」
　　特集陳列「新収品展」
　　（日本語版・一般向け）1,493 台
　・特別展「高僧と袈裟」
　　（日本語版・一般向け）1,927 台
　・特別展「筆墨精神」
　　（日本語版・一般向け）5,734 台
　・特別展「法然」
　　（日本語版・一般向け）1,671 台（～3/31 まで）
・事務職員はすべて普通救命講習を受講し、衛士は上級救命講習を受講している。AED 取扱については繰り返し訓練を行った。

臨時コインロッカー及び自動販売機設置テント
（右手奥は清涼飲料水販売所）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 音声ガイド貸出件数 | 47,668 件 | － | － | | 50,344 | 34,597 | 78,797 | 47,668 |
| リーフレット | 6 カ国語 | 6 カ国語 | A | | 6 カ国語 | 6 カ国語 | 6 カ国語 | 6 カ国語 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 利用者サービス係長　築部一男 |
| 実績・成果 | ・快適な観覧環境を提供するため展示ケースを一新し、透過性のあるガラスを使用して見やすくした。また、なら仏像館の回廊の照明が暗く、展示している仏像が見えにくいという声に対応し、照明工事を行い、これを改善した。<br>・「正倉院展」期間中に、新たに託児室を開設し、多数の利用があった。<br>・「正倉院展」期間中に入場待ち列テントを設置、看護師の館内常駐を実施した。<br>・「正倉院展」期間中に混雑緩和のため、会場入り口での入場制限や 11 月 3 日には団体入場の制限を行った。<br>・正倉院展入場待ちのお客様サービスとしてモニターによる日曜美術館の放映や正倉院展の号外新聞を配布した。<br>・地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置し、英語による案内を行った。<br>・お客様の入場を分散するために閉館前入場割引制度（オータムレイト料金）を設定し、オータムレイト券購入者には記念品を配布した。<br>・客数情報システムを導入し、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。<br>・特別展において、音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。<br>・入館者サービスの一環として館内サインを統一した。<br>・観覧券（入場券）をクレジットカードで購入出来るようにした。 | | | |
| 補足事項 | ・新設した託児室は、保育士 2 名を常駐して 1 歳児から未就学児までを預かり、予約制で実施した。遠くは、神奈川県、群馬県、福岡県等から来られ、会期中 196 名の利用があり、みなさまに喜んでいただいた。<br>・オータムレイト料金とは、閉館の 1 時間 30 分前以降に販売する当日券の割引料金で、一般が 1,000 円のところ 700 円で販売した。オータムレイト券購入者に記念品として第 3 回正倉院展ポスターの一部を模したしおりを配布した。<br>・大遣唐使展においては、耐震工事中で会場が分断されたため、会場の移動途中に、展覧会関連の映像を流す等配慮した。<br>・展示ケースを一新し、透過性のあるガラスを使用しているので見やすくなった。 | | | |

託児室

正倉院展入場待ち列テント

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸付件数 | 69,219 件 | － | － | 経年変化 | 37,110 | 60,356 | 51,970 | 69,219 |
| | リーフレット | 7 カ国語 | 7 カ国語 | A | | 7 カ国語 | 7 カ国語 | 7 カ国語 | 7 カ国語 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　快適な観覧環境の提供　　①　快適な観覧環境の提供 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課<br>総務課 | 事業責任者 | 企画課長　小泉惠英<br>文化交流展室長　河野一隆<br>総務課長　岩﨑英明 | |
| 実績・成果 | ・快適な観覧環境を提供するため、文化交流展示室において来館者ニーズに合った情報提供を行うためのプログラムの研究・開発、および混雑対策など観覧環境の整備を行った。<br>・７カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語）のリーフレットを継続して制作した。<br>・英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付きマップを作成し、配布した。<br>・混雑が予想される展覧会について、入場者調整、展示レイアウトの工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。また、障がい者のための特別観覧日を設けた。<br>・解説題箋や館内サインを必要に応じて新装した。<br>・開館以来、破損等の原因により使用に支障が出ていたケースについて、ガラス交換や外装のタッチアップ等の作業を実施した。<br>・竣工以来、６年を経過する映像機器、調光機器の老朽化等を考慮して、使用していない展示情報に係るコンピュータシステムの整理や機器の更新を行った。<br>・特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。<br>・太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。<br>・電子マネー（nimoca）を導入した。<br>・IC エコまちめぐりシステム端末を設置した。 | | | | |
| 補足事項 | ○情報システムやコンピュータ機器、ケースの更新や修理を進め、老朽化に伴う機器トラブルを回避するための準備を進めた。<br>○混雑が予想される展覧会について<br>・混雑した「没後 120 年　ゴッホ展」において、期間中に入場待ち列用のテントを設置した。<br>・混雑緩和のため、入場者数を適宜調節することにより快適な観覧環境への提供に努めるとともに、混雑状況をホームページ・携帯サイト等で情報提供するなどの対策を講じた。<br>・休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供した。（参加者　障がい者・介護者　527 名）<br>・看護師の館内常駐を実施した。<br>○nimoca 端末を導入し電子マネー決裁が可能になり、来館者の利便性を向上した。<br>○IC カードリーダー又は二次元バーコードを携帯で読み取り登録することで、携帯サイトから観光情報を得ることができるようになった。 | | | | |

「没後 120 年　ゴッホ展」
入場待ち列用テント

障がい者の日観覧風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸出件数 | 81,717 | － | － | | 74,367 | 67,663 | 139,159 | 81,717 |
| | うち特別展 | 73,130 | － | － | | 62,661 | 59,547 | 133,833 | 73,130 |
| | うち文化交流展示 | 8,587 | － | － | | 11,706 | 8,116 | 5,326 | 8,587 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2321

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央 |

**実績・成果**

○特別展アンケート
すべての特別展で実施し、どの展覧会も 74～83%と概ね高い満足度となった。
昨年度開催の特別展「国宝 土偶展」から導入しているタッチパネルアンケートシステムを、22 年度のすべての特別展で設置した。
○平常展アンケート（22 年 4 月～12 月）：紙媒体でのアンケート
回収サンプル数 446 件（日本語 307 件、英語 104 件、韓国語 30 件、中国語 5 件）
満足度 88%（とても満足 48%、やや満足 40%、どちらともいえない 7%、やや不満 3%、とても不満 2%）※無回答分を含まず

○総合文化展アンケート
23 年 1 月 2 日からの本館リニューアルと「平常展」から「総合文化展」への改称に合わせ、本館玄関ホールへ新規に「総合文化展」タッチパネル式アンケートシステムを導入した。
※経年変化比較のため、定量評価は上記紙媒体でのアンケートを使用

**補足事項**

・特別展アンケート結果から、どの展覧会も平均して高い満足度となった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会でもより高い満足度となるよう、アンケートを積極的に活用していきたい。特にキャプションやディスプレー設置場所などに注意したい。
総合文化展タッチパネル式アンケートシステム導入後の調査結果は下記のとおり。
導入後（23 年 1 月～3 月）：
回収サンプル数 1,445 件（日本語 1,013 件、英語 206 件、韓国語 64 件、中国語 162 件）
満足度 72%（とても満足 25%、やや満足 46%、どちらともいえない 20%、やや不満 3%、とても不満 6%）※無回答分を含まず

タッチパネル式アンケート（左：特別展「仏教伝来の道－平山郁夫と文化財保護」、右：総合文化展）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 細川家の至宝 | 83% | － | － | 経年変化 | － | － | － | － |
| 誕生！中国文明 | 76% | － | － | | － | － | － | － |
| 東大寺大仏―天平の至宝― | 74% | － | － | | － | － | － | － |
| 仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護 | 80% | － | － | | － | － | － | － |
| 平常展 | 88% | － | － | | － | 84% | 89% | 88% |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　植田義雄 |
| 実績・成果 | ・入館者アンケートを実施<br>特別展覧会「長谷川等伯」満足度 91%<br>回答数 2,435 件（良い 74%、まあまあ良い 17%、どちらでもない 3%、あまり良くない 1%、良くない 1%）<br>特別展観「上田秋成」満足度 78%<br>回答数 365 件(良い 43%、まあまあ良い 35%、どちらでもない 12%、あまり良くない 3%、良くない 4%)<br>特別展覧会「高僧と袈裟」満足度 84%<br>回答数 371 件(良い 55%、まあまあ良い 29%、どちらでもない 11%、あまり良くない 1%、良くない 2%)<br>特別展覧会「筆墨精神」満足度 88%<br>回答数 297 件(良い 63%、まあまあ良い 25%、どちらでもない 4%、あまり良くない 4%、良くない 0%)<br>・特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。<br><br>・モニターを委嘱し、提言を受けることで、展覧会を含めた博物館運営に反映した。<br>・通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行ってより細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有した。 | | | |
| 補足事項 | ・特別展覧会において入館者アンケートを実施し、質問等には電話等で回答した。<br>・平常展示館は建替工事に伴い休館中であるため、特別展覧会の入館者アンケートのみ実施した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展満足度 | －% | － | － | 経 | 72% | 70% | － | － |
| | 長谷川等伯展満足度 | 91% | － | － | 年 | － | － | － | － |
| | 上田秋成展満足度 | 78% | － | － | 変 | － | － | － | － |
| | 高僧と袈裟展満足度 | 84% | － | － | 化 | － | － | － | － |
| | 筆墨精神展満足度 | 88% | － | － | | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2323

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 利用者サービス係長　築部一男 |
| 実績・成果 | ・名品展アンケート（全開館日）<br>回答数　342 件（良い 74.7%、普通 9.1%、良くない 5.3%、無回答 10.9%）<br>・英語版名品展アンケート（全開館日）<br>回答数　83 件<br>・特別展アンケート<br>「大遣唐使展」<br>回答数 892 件（良い 84.6%、普通 8.2%、良くない 4.7%、無回答 2.5%）<br>「仏像修理 100 年」「至宝の仏像」<br>回答数 551 件（良い 87.9%、普通 7.8%、良くない 3.1%、無回答 1.2%）<br>「第 62 回正倉院展」<br>回答数 1,008 件（良い 77.1%、普通 13.7%、良くない 6.1%、無回答 3.1%）<br>・特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に掲載 | | | |
| 補足事項 | （アンケートなどの意見を反映して、改善したこと）<br>・観覧料金の支払いをはじめミュージアムショップやレストランでクレジットカードや電子マネーを利用できるようにした。<br>・トイレの設置個所の増設に努め、西新館１階にトイレ（男・女）を新たに設置した。<br>・なら仏像館の回廊の照明が暗く、展示している仏像が見えにくいという声に対応し、照明工事を追加し、これを改善した。<br>・アンケートの結果を受けて開館時間の延長を行った。<br>・ホームページの御意見箱の質問に対し、迅速に対応した。<br>・展示室が暗いとの意見があったが、西新館のリニューアルに伴いこれを一新し、展示室が明るくなったとのお客様の声が増えた。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 名品展満足度 | 74.7% | － | － | | 66% | 67% | 68.4% | 74.7% |
| | 大遣唐使展満足度 | 84.6% | － | － | 経年 | － | － | － | － |
| | 仏像修理 100 年･至宝の仏像満足度 | 87.9% | － | － | 変化 | － | － | － | － |
| | 正倉院展満足度 | 77.1% | － | － | | 68% | 75% | 79.3% | 77.1% |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　岩﨑英明 |
| 実績・成果 | ①平常展アンケート　満足度 59%　　回答数 292 件<br>（とても良い 30%、良い 29%、普通 16%、あまりよくない 4%、よくない 9%、無回答 12%）<br><br>②特別展アンケート<br>「パリに咲いた古伊万里の華」　満足度 95%　　回答数 6,815 件<br>（とても良い 65%、良い 30%、普通 3%、あまりよくない 0%、よくない 0%）<br>「馬　アジアを駆けた二千年」　満足度 80%　　回答数 620 件<br>（とても良い 36%、良い 44%、普通 12%、あまりよくない 4%、よくない 2%）<br>「誕生！中国文明」　満足度 89%　　回答数 347 件<br>（とても良い 55%、良い 34%、普通　6%、あまりよくない　1%、よくない 1%）<br>「没後 120 年　ゴッホ展」　満足度　85%　　回答数　3,387 件<br>（とても良い 56%、良い 29%、普通 7%、あまりよくない 2%、よくない 3%） | | | |
| 補足事項 | ①平常展アンケート<br>・年齢層<br>（10 代以下 34%、20 代 5%、30 代 11%、40 代 7%、50 代 14%、60 代 13%、70 歳以上 8%、無回答 8%）<br>社会科見学等、学校行事で観覧する学生が多い。<br><br>・認知経路<br>（テレビ・ラジオ 16%、ちらし・ポスター 15%、新聞 12%、人から聞いて 12%、ウェブサイト 5%、学校 12%、雑誌 4%、季刊誌アジア―ジュ 1%、その他 9%、無回答 14%）<br>テレビ・ラジオでの認知が高いが、学生の観覧者が多いため、学校からの認知も高い。<br><br>・管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧している。<br><br>②特別展アンケート<br>・「没後 120 年　ゴッホ展」において、アンケート結果から開館時間の延長を行った。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展満足度 | 59% | ― | ― | 経年 | 64% | 63% | 66% | 59% |
| | 古伊万里の華展満足度 | 95% | ― | ― | 変化 | ― | ― | ― | ― |
| | 馬展満足度 | 80% | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |
| | 中国文明展満足度 | 89% | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |
| | ゴッホ展満足度 | 85% | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央 |
| 実績・成果 | ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。<br>また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。<br><br>・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。<br>・新たな絵はがきとして今年度は、20種類を製作した。<br>・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「拓本とその流転」の開催期間中、書道博物館の図録も販売し、当館と他館との連携事業に協力した。<br>・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。 | | | |
| 補足事項 | ・新たなミュージアムグッズとして、代表的な館蔵品をモチーフとしたオリジナル切手を製作販売した。<br>・上記以外のミュージアムグッズについても、その都度協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(八橋蒔絵硯箱模様ボールペン、館蔵の名品の額絵など)<br>・今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。 | | | |

オリジナル切手

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | — | — | — | — | 経年変化 | — | — | — | — |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

| 中項目 | ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　植田義雄 |
| 実績・成果 | ・南門施設は平成２１年７月にリニューアルオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーと共に入館料を払わずに来館者が利用できるスペースとなっている。３業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた形での運営を心がけた。<br>・接客の向上として、当館が開催するマナー講習会及びクレーム講習会に参加した。<br>【インフォメーション】<br>・展覧会関係のチラシ及び京都市観光協会の協力より京都観光などのチラシを置き、案内所には英会話のできる人員を配置し、当館の案内だけではなく京都市内の観光案内も行った。来館者にも好評である。<br>・ぐるっとパスの販促用グッズを設置し、ぐるっとパス加盟館として販促を実施した。<br>【ミュージアムショップ】<br>・来館者が手軽にお買い求めいただける絵はがき等を中心にオリジナルグッズを作成した。<br>・絵はがき販売総数は 350 種類に上り、日本美術を中心としたグッズを販売した。<br>【レストラン】<br>・アンケートを実施したところ、来館者におおむね満足いただけているが、集計した内容をレストラン側に提出し、さらなる接客の向上に努めた。 | | | |
| 補足事項 | ・展覧会ごとにオリジナルグッズや関連グッズ、関連書籍等と取りそろえ、来館者へのサービスを行った。<br>・来訪できない方には、図録等の通信販売を実施して対応した。<br>・レストランの新メニューとして、コーヒー類を刷新し、コーヒーの最高峰と言われるブルーマウンテンＮｏ．１や、茶葉から抽出する紅茶を充実させた。<br>・これらは、レストランを利用した来館者の声により改善したものである。<br>・インフォメーションコーナー、ミュージアムショップ、レストラン共通の営業カレンダーを制作し、掲示した。<br>・博物館が全館休館中であっても、通常通り営業を行った。 | <br>南門施設インフォメーション | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2333

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 利用者サービス係長　築部一男 |
| 実績・成果 | ・「正倉院展」では、常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップが出店した。<br>・平城遷都 1300 年にちなんでミュージアムショップで記念グッズを取り扱った。<br>・ミュージアムショップで新しいオリジナルグッズを追加作成し、お客様のニーズに応えた。<br>・ミュージアムショップやレストラン等でクレジットカードを利用できるようにした。<br>・季節毎にお客様に対して、ミュージアムショップを知っていただき、また親しんでいただくために「七夕に願を」「ビーズで作ろう！元気が出る仏像」等のキャンペーンを実施した。<br>・観覧料金の支払いをはじめミュージアムショップやレストランで、クレジットカード（種類：ビザ、マスター、JCB、アメックス、ダイナース）や電子マネー（種類：ピタパ、イコカ、銀聯）を利用できるようにした。 | | | |
| 補足事項 | ・ミュージアムショップのオリジナルグッズとして、「元気が出る仏像シリーズ」の新商品オリジナル・マグネットを作成した。<br>・事業仕分けの対象となり、業者選定の企画競争を行った。<br>・ミュージアムショップ、レストランと定期的に連絡会を行い、商品の開発や改善を検討することとした。 | | | |

平城遷都 1300 年記念グッズ

オリジナルグッズ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 広報課 | 事業責任者 | 広報課長　不動勝義 |
| 実績・成果 | ①ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。<br>②レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。 | | | |
| 補足事項 | ①博物館の記念セレモニーにあわせた記念セット商品を販売した。<br>トピック展示「茶の湯を楽しむⅢ」の会期中は、お茶に関連した商品の陳列コーナーを設けるなど、展示と連動した商品展開を実施した。<br><br>②特別展に関連したメニューを提供した。<br>夏に開催した特別展「馬　アジアを駆けた二千年」では、話題性を意識し、時代を駆け抜けた坂本龍馬をイメージした「龍馬御前」（松花堂弁当）　2,100円<br>温泉玉子西京漬（京都）、蒸大根あちゃら漬（鹿児島・指宿）、若鶏文化大砲巻（長崎・野崎島）などを提供した。 | | | |

5周年記念セット

「龍馬御前」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |